京城日報

廿二日夕刊

定價 本紙一部金三錢五厘一ヶ月金六拾五錢三ヶ月金壹圓九拾錢六ヶ月金參圓七拾錢▲郵券代用二割増
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢▲雜報欄内一行金壹圓貳拾錢▲場所指定は二割増▲三號活字の一行は五號活字同樣▲六號活字の一行は五號活字同樣の事
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

汽車時間表（七月十日改正）

◎我國旗を狙撃す

郭家店の支蒙兩軍の激戰—我守備隊の急行—官兵の不遜—蒙軍不利—官兵郭家店占領

▲早朝の激戰

二十一日午前五時支那兵は不意に蒙軍の攻撃を開始し蒙軍は不利に陥るや陣地に火を放て鐵道の東方に退却し蒙軍の死傷は四十名に達せり午前八時我官憲より休戰して陣地變更を命じたり十一時北方にて復た激戰あり午後二時郭家店は官兵の占領する處となりたり（長春特電）

▲蒙軍の不利

二十一日午前五時より支蒙兩軍は戰闘を開始し頗る猛烈にして蒙軍は一時不利の戰況に陥りたるより舊郭家店の陣地を退却し司令部を附屬地東北方の支那街に移すの止なきに至り負傷者二十六名を出し官兵側にも多數の死傷者あり彈丸の附屬地に落下するもの多かりしも幸に死傷者なく唯滿鐵社宅の窓一を破損したるのみ（長春特電）

▲守備隊急行

二十一日午前舊郭家店に於て支蒙兩軍の猛烈なる戰闘開始されたる報に接し公主嶺の我守備兵五十名は急行して午前九時郭家店に到著せり（長春特電）

▲官兵の不遜

廿一日朝の戰闘により官兵は郭家店驛後方の高地より蒙軍の本陣に亘る一帶の地を占領し蒙軍は附屬地の北方に陣地を移したれば日本側よりは附屬地危險の理由により官兵に休戰を命じたるも依然戰闘を繼續し其の交渉に應ぜず（長春特電）

▲國旗を狙撃

二十一日郭家店に於ける支蒙兩軍の戰闘は激烈にして我附屬地危險の爲午前八時我守備隊より軍使として六名を支那軍司令部に差遣し一行は國旗を飜して進みしに約五六百米突ならずして官兵は突然我差遣員を狙撃し通譯及び兵士の乘馬二頭負傷せしより一行は引つ返し更に軍備を整へ戰線に向ふ筈なるが我日章旗を狙撃せるは重大事件なれば嚴重に其の責任を問ふべし（長春特電）

▲赤十字急行

廿一日郭家店の戰闘には衞生隊の設備なきが故に兩軍の負傷者等は目も當てられざる慘狀なるより長春より我赤十字救護班急行せり（長春特電）

◎國旗狙撃事件別報

兩軍停戰蒙軍北方に退却

二十日大敗せる討伐軍は其の後歩騎兵四營機關砲四門の應援を待て二十一日朝七時蒙匪軍郭家店の本營に發砲し我が附屬地に流彈飛び來り危險甚だしきより我が守備隊は停戰を交渉し蒙匪軍は退却したるも討伐軍は頑として應ぜず依つて軍使二名を派せしに討伐軍は軍使の持てる國旗に發砲し軍使の乘れる馬二頭斃れたるも軍使は無事討伐軍營に達し談判の結果停戰せしめたり蒙匪軍は北退せり（奉天特電）

記者曰く長春特電に依れば我軍使（本電には二名とあり長春特電には六名とあり）は支那兵狙撃の爲中途より引き返せりとあるも本電に依れば無事官兵の陣營に到著停戰せしめたりとあり取り敢へず記して後電を待つ

◎支那政府の派員調査

或程度まで日本の要求を應諾せん

十九日奉天督軍張作霖より鄭家屯事件に關する密電政府に達したるが段總理は參謀總長王士珍及び外交總長代理陳錦濤等と協議し外交部より二人陸軍部より一人の委員を派し事實を調査せしむる筈にて支那政府は成る可く本事件を司法問題として解決し國際上の紛爭となさざる事を希望し或る程度まで日本の要求を應諾する事に決せり（北京特電）

◎段總理承認案通過す

衆議院に於ける段國務總理承認案は出席者四百三十一名にして大多數を以て通過せり（北京電報）

◎北海の英獨海戰

十九日北海に於て英獨海戰あり英國巡洋艦二隻撃沈せられ獨潜航艇二隻沈沒せり（紐育電報）

◎出動せんとせし獨艦隊

英國海軍省の發表せる所に依れば、獨逸太平洋艦隊は十九日港外に出動せしが英國大艦隊との衝突を避け間も無く港内に歸還せり（倫敦電報）

◎伊軍サロニカ上陸

巴里來電に曰く、ハバス通信社の報ずる所に依れば伊軍はサロニカに揚陸を行ひつゝありと（紐育電報）

◎勃軍希臘要塞を占領す

英軍はボツチヂエリにて勃軍撃退

勃國軍は希臘要塞リザスタルチスタを占領せり戰闘はモナスチールよりカプアラに亙り進行中なり英軍はボツチヂエリに於て勃國軍を撃退せり（倫敦電報）

◎チエルブイツシエ高地占領

露都來電に依れば露軍はチエルブイツシエ高地を占領せり（倫敦電報）

◎竹越氏拜辭す

這回の行賞に對し

這回の行賞に勳三等を授けられたる前代議士竹越與三郎氏は衷心深く安んぜざるものあり理由書を添へ宮內省へ恩典拜辭を願ひ出でたり（東京特電）

◎井上大使歸朝

前英國駐剳特命全權大使侯爵井上勝之助氏夫妻は二十二日午前六時横濱入港の郵船太平洋汽船ニム、ルシヤ號にて歸朝せり（東京特電）

◎荒井長官出發

東上の途に就ける荒井度支部長官は二十二日朝連絡船高麗丸にて內地へ向へり（釜山特電）

◎閔長官歸鮮

東上中なりし閔李王職長官は二十二日朝連絡船新羅丸にて著釜歸京せり（釜山特電）

◎政務總監張宴

山縣政務總監は既記の如く二十二日午後七時より井口軍參謀長、井出主計監、古海鐵務總長等を朝鮮ホテルに招待晩餐會の催しあり總督府各部長官、局長、小松總長、秋山參事官、所屬官署の長官等亦參席す可く出席者は總計二十二名なり

◎國分長官出發

司法部長官國分三亥氏は司法事務視察の爲め既記の如く二十二日午前九時十分南大門發列車にて北行せるが平壤、鎭南浦、新義州地方の視察を了し三十日歸任の豫定なり

◎師團長檢閱延期

立花第十九師團長は九月一日より八日迄隨時檢閱執行の豫定なりしが駐劄軍司令官交迭等の爲め無期延期となれり

◎立花中將南行

立花第十九師團長は暑中休暇にて歸宅中なりし令孃の東上を見送り旁々二十二日午前八時三十分南大門發急行にて釜山へ赴きたるが一兩日東萊溫泉へ入湯二十五日夜若しくは二十六日朝歸任の豫定なり

◎白井中將赴任期

今回旅順要塞司令官に轉補されたる前第四十旅團長白井二郎氏は二十八日午後四時十分の南急行にて大邱出發の豫定なりと

◎ド氏京城見物

米國オハヨー州選出議員ドクラス氏は北京に赴く途中二十日入京朝鮮ホテルに滯在せるが二十二日は總督府を訪問菱田通譯官の案內にて景福宮昌德宮等を見物したり

◎和蘭武官來鮮

駐日和蘭公使館附武官ローゼンタール氏は九月五日東京出發十日頃京城著の豫定なるが兩三日滯在の上龍山の師團をはじめ咸興、羅南、會寧等の分隊を見學す可しと

◎閔長官歸京期

東上中なりし李王職長官閔丙奭子は二十二日午後九時南大門著歸京の筈なり

◎司計課長東上

司計課長河內山樂三氏は大正六年度總督府豫算に關する要務を帶び二十二日午後七時五十分南大門驛發汽車にて東上す

◎定例長官會議

二十二日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官局長、所屬官署長官等は午前十時より總督府第一會議室に參集通常政務に就き協議打合せの上正午散會したり

◎內地米逆移入と其米質

仁川港定期市場は六月以降內地期米と沒交渉に高價相場を表し賣買兩者は從來の行掛上深入深く當月限の如く五萬餘石の取組高を示すに至れり而も尚取組激增の傾向を現はしたるを以て本月六日遂に當月限の新規賣買を停止するに至り一方正米も之に伴ひ內地及び鮮內各地に比し割高を維持したれば定期準備米として釜山群山鎭南浦其他從來回著を見ることなかりし地方より續々回著を見るに至りたり此現象は尚之に止まらず本月十二日に至り政府調節米として門司倉庫に貯藏せられたる大正二年度產肥後米千五百俵の移入を見るに至れり其後七月八月中旬迄三回に一萬六百俵を移入したり而して之等移入品は仁川港及び京城の各精米所に於て精白し試賣したり其の成績は步止に於ては品質優良なるを以て大正四年產黃海道米と略同樣にして約一割耗見當なりしも古々米なる丈粘氣を失し且一種の臭氣を帶べるを以て食味としては比較とならざる程なるを以て內地人向としては絕望と見るの外なきも釜增の點に於ては約一割を增加するを以て鮮人向としては望みたきにあらず價格の點に於て割高の採算を示せり

◎仁川大豆拂底

仁川港七月中の大豆輸移出高は六萬六千百三十七圓にして前月に比し二萬九千餘圓前年同月に比し三千餘圓の增加を示せり這は前月銀塊相場の關係により滿洲大豆の壓迫を受けたる本品が阪地在荷漸く減退し品切的引締りを見るに至り豆腐向好適品たる龍山大豆の如き高値賣行ありたるに由り當地手持商が品薄ながら移出したるに由れり當地市場は近來品薄にて取引殆んど杜絕て相場も強調にて月初月末共に龍山物七圓六七十錢を唱へたり月末在庫高は僅に四百餘叺に過ぎず前月に比し三千二百餘叺を激減せり

◎仁川の選擧界

來る二十五日仁川商業會議所に於て執行すべき評議員內地人二名鮮人一名の補缺選擧に對しては一般に頗ぶる沈靜にして未だ公然名乘りを揚げたる候補者とては一人もなく目下巷間にて候補者と目されつゝあるは百三十銀行支店長二木萬藏氏京城電氣支店長山內篤氏の兩氏鮮人側にては貿易商具昌祖氏最も呼び聲高し（仁川）

◎京奉自動車連絡

京城春川間の自動車は加平清平川間の橋梁修築の爲めに通行中絕せるより營業者は目下人力車十臺を用ひその間に於ける連絡を圖りつゝあり

◎浦鹽滿洲視察團

釜山商業會議所主催にて浦鹽より滿洲視察團組織に付二十一日午後二時半より大池會頭、中村副會頭、視察團員の內定者、石原源三郎、水野巖、石川伍一、許斐友次郎、中村克己、朝日商會主山崎氏等は會議所內に會合の上種々協議したるが出發期は九月四五日頃ならんと

◎山內長春領事引籠

在長春領事山內四郎氏は十九日より微恙引籠中なり（長春）

◎南行列車故障

二十一日朝安東驛發の南行列車は開城長湍間にて汽罐に故障を生じ約一時間南大門驛に遲著したる爲め南大門驛發は午後八時五十分一時間の遲發を爲せり

平壤

▲鑛業所技師出京 平壤寺洞鑛業所技師吉川岩吉氏は所務を帶び二十四日午前二時平壤驛發列車にて上京したり▲鮮銀理事來壤 朝鮮銀行理事木村雄次氏は十九日來壤旅館柳屋に投宿し二十一日鎭南浦支店視察の爲め同地へ向け出發せり▲學校組合協議會 平壤府學校組合協議會を二十五日平壤府廳樓上に於て開會大正五年度學校組合歲入歲出豫算案を附議すべし▲价川鑛山主任來壤 三井价川鑛山主任工學士鈴木四郎氏は十九日社用を帶びて來壤し旅館柳屋に宿泊中なるが二十三日歸山の筈

仁川

▲客月出入船客 仁川港に於ける七月中の出入旅客數を聞くに內地への乘船客百五十六人內地より上陸客百六十八人計三百十六人支那への乘船客四百九十七人支那より上陸客一千三百四十七人計一千八百四十四人朝鮮沿岸乘船客一千二百〇四人上陸客一千二百十八人計二千四百三十二人總計出入船客四千五百八十二人なり▲引込線成績 仁川稅關構內鐵道引込線七月中の利用狀況を聞くに發送貨物三萬二百八十六個二千八百三十噸八十瓩著貨物九千零四十六個一千零四十噸九十三計三萬九千三百三十三個三千八百七十一噸七十三なり

忠州

▲鳥野大尉榮轉 大尉に昇進したる忠州憲兵隊附鳥野大尉は第七十九聯隊本部附に轉補せられ十九日大田に向つて出發したるが官民の見送り盛なりし▲班長轉勤 大正三年來忠州憲兵分隊班長たりし谷田憲兵軍曹は淸州憲兵分隊芙江派遣所長に轉補され二十日出發したるが官民有志は同氏多年の勞を犒ふべく紀念品を贈呈せり▲新任班長赴任期 谷田班長と交代すべき新任八木沼憲兵軍曹は事務引繼を終へ二十七日頃芙江發赴任すべし▲狂犬頻出 二三箇月前より狂犬頻出し人畜の被害頻々として其都度憲兵分隊にて撲殺し其數實に十數頭に達したるが何れも狂犬にして咬癖あるものは殆んど病的症狀にありと

大田

▲在庫米數 米穀の輸移出を見たる結果は當地方にも波及し來り一般小賣米の騰貴を爲すに至りしが本月に入りても漢農倉庫米の中二百七十四叺の京城行あり金融組合、興業會社、漢銀其他より全部の輸出あり二十一日農銀現在高千二百叺以外には他に持米あらざる模樣なれば今後出來秋までは或は他より逆輸をなすと同時に米價も又騰貴するに至るべしと觀測せられつゝあり▲組合加盟者 大田金融組合員は從來三百五十名內外なりしを以て佐藤理事は一層組合員を增加せしむる目的にて奔走せし結果第一回に五十名の增加をなしたるを以て豫定數五百名に達せしむべく第二回募集を爲しつゝあり▲問題解決 鐵道郵便所移轉問題は端しなくも紛擾を惹起するに至りしが右は相互の感情問題にあらずして居住民は溫泉場發展の爲め郵便所の位置に就て意見の齟齬を生じたるものにて仲介者あり互に意見の交換を爲したる結果圓滿なる解決を見たり因に儒城郵便所は十五日以來業務を開始し一般電信電話を取扱ひ居れり▲隊長著任 大田憲兵分隊長乘山程三郎氏は十九日京城より著任せり▲名士來往 李完用伯は二十一日金川に向け當驛通過し扶餘憲兵分隊長荻原吉五郎氏は二十日夜來田二十一日朝出發赴任せり

大邱

▲肺ヂストマ研究 慶北に於て有名なる肺ヂストマ病に就き先日來宮入博士は漆谷郡多富院に滯在是が病狀經過に就き專心研究中なるが去る廿日服部慶北警務部長及び松本慈惠院長は同博士を訪れたるに昨年已に第一回の研究を了り今年の繼續研究は大に其歩を進め不日斯界に貢獻する所ある可しと語れり▲入澤第一部長歸邱 入澤慶北第一部長は賜暇歸省中なりし處來る二十七日歸邱の筈

清津

▲開通式臨場 二十一日忠北永同にて擧行する同地全北茂朱間運轉の自動車開通式に臨席のため忠北道佐々木第二部長山口道書記及び警務部野中警視は二十日朝淸州發芙江經由永同に向ひたり▲淸州の夜市 每土曜日夜開市の淸州夜市第三回目は十九日夜本町旭町の交叉點を中心として開かれたり當夜は流投生花の陳列餘興の藝妓手踊等も一層盛にて午後九時前後は非常の雜沓を極めたり▲三餘俱樂部 過般來準備を取急ぎつゝありし淸州官民聯合の三餘俱樂部は頃日漸く全部の設備を終りたり會員總數百五十に達して頗る盛況を呈しつゝあり

人事消息

▲渡山恒氏（漢湖農工銀行支配人）二十二日朝四五日間の豫定にて忠南論山扶餘方面へ出張
▲江崎重樹氏（大倉組社員）二十二日朝開城へ
▲岡部安積氏（藤田組技師）二十二日朝退京
▲入江技師（農務課）二十一日水原郡に出張

□大塊翁へ（御禮申上候） 平壤居士

大家の御名句辱けなく拜誦御禮申上候、仰せの通り滿蒙の前途憂慮の至りにて、早く此の愛の去らん事希望に不堪候依て茲に謹で駄句り申候（二十一日）

秋の聲聞いてはやめよ庭の蟬

□公州より 烏鬼生

送白居成將軍
秋津洲の蜻蛉南へ飛ぶよ夕
寄台水主計監
刀解いて芋掘る君歟朝露に
持地局長微恙あり
御大事に遊ばせとよ殘暑哉
○
野良弊に糸瓜の宿の主客哉
天の川邑の灯蹤更けにけり

□慶北安東より 笑聲

扇白きが案內す宿り
扇にて落す虫の蔓の花
下葉ふるゐし艸林檎水々し
竹の太り目立つ蜻蛉照る
屋根の臥瓢見つめる殘暑
‖八月十九日‖

聖上朝鮮煙草を召す
畏くも御滿足の御言葉を賜はる

長き邊りの御思召に依りて謹製せる第二回献上煙草を携帯東上せし度支部專賣課小谷屬は二十一日歸任せり、其の謹話に曰く寺内總督が著京されしは七月五日なりしが余も亦同日東京に入り直ちに出張所に出頭して木戸屬托との間に献上煙草の授受を了へたり、第一回は岡田技師宮内省に出頭奉献の手續を經たるが今回は七日寺内總督親ら携帯參内せられ滯りなく献上の儀を了へられし由なるが其の後洩れ承る處に依れば畏くも　主上には至極結構なりとて龍顏麗はしく聞し召し給へりとの事なり、献上煙草の謹製當時は恰も梅雨期中なりしこととて品質變化の虞あり仕上後に於ても有ゆる手段方法を講じて萬全を期したるも尚も萬一を慮りて一同心を痛めつゝありしに何等の異狀なかりしことを拜し初めて蘇生の思ひを爲せり、殊に第一回といひ今回といひ幸ひにも思召に叶ひまつりて御滿足の御言葉を賜はりしは洵に恐懼に堪へざる次第にて朝鮮煙草界無上の光榮とこそ申す可けれ

戒嚴令下の吉林
五十歩毎に歩哨夜間通行遮斷

巴布札布軍の勢力各所に猖獗し其他宗社黨の入込まんとの說盛なるより孟督軍は郭省長と協議の上吉林省城に戒嚴令を布告せりその區劃は東は停車場、西は歡喜嶺北は北山に各一箇小隊を宛て南は松花江輜重兵一營を宛て城内は元檢察廳跡に二箇中隊特に將軍衙門一箇中隊省長衙門に步衛隊騎兵一營步兵一營砲兵一營を配置し省長督軍の護衛の任にあり右兩衙門の周圍五十步毎に步哨を立て嚴重に警戒を爲し夜間通行は一切之を遮斷し誰何一々訊して通行を許し居れり(長春特電)

腕に白麵麭を抱いて
優遇されてる戰爭の捕虜＝伊太利政府で撮らした活動寫眞＝イルミネーションで國籍と船名＝西比利亞を通つて來たチリオロ氏の談

五月下旬商用のため京城を出發し西比利亞線を經て故國伊太利に歸つた利昌商會主人チリオロ氏は再び歐露を通過して歸任した曰く

露西亞でも英國でも伊太利でも佛蘭西でも此戰爭は長びくかは知れないが必ず

◆聯合國側の勝利　になるといふことを確信してる所爲か誰の顏を見ても皆元氣で不安らしい顏をしてるものは一人もありません旅行も殆ど絕對的に安全で日常の生活もあまり變つたところがありません唯流石に戰時だと思はせるのは西比利亞線で行くと歐露の國境のボロストロフで先づ嚴重な訊問に會ふ姓名職業行く先國籍などの取調べ詳しくあつて若し

◆不審だと思ふと　身體檢査までやる露西亞で驚いたのは沿線の所々に見る獨墺の俘虜が皆い〻血色をしてそして腕の下に大きな白麵麭を一抱づゝ持つてゐたことである露西亞では普通の時ですら黑麵麭を用ゐるものが多いのに俘虜に白麵麭とは思ひがけなかつた更に芬蘭から諾威に渡る時にトルネアの驛で檢査される諾威のクリスチャニアからベルゲンまでの間は世界に有名な奇勝地で時六月に入つてるにも係らず

◆雪河峽谷に白絹　を投げて實に得も言はれぬ景色ベルゲンから英國のニューカッスルまでは二千噸級の連絡船が旅客のみを積んで大きなので三十時間小さな船で三十六時間の航海をしてるが夜は船上にイルミネーションにて國籍と船名を大きく出して潜航艇に襲はれるのを豫防してゐる此のニューカッスルでは私は六時間に渉つて身體檢査をうけたが

◆英國では獨探の　侵入を非常に怖れて凡て檢査は嚴重である伊太利へ入るとフロレンスの北方へでも行かなければ戰爭のために何等の變化も來してゐないといつてよい只政府で撮らした戰地の活動寫眞が市民に提供されるので其れで始めて山地戰の如何に困難なるやを知るのみである獨逸の潜航艇ドイッチランド號が米國海岸へ著いたことは彼方で知つたがしかし今から一年半前に

◆米國から潜水艇　が五隻英國へ來たことがあるから彼方では誰も大して驚くものはない要するに聯合各國民は獨逸の滅亡墺太利の攪滅を信じて前途を頗る樂觀してゐる

□そゞろあるき　(四)朝の公園

南山は未だ濡れて居た。市街も未だ靜かな朝だつた。城壁の石に二人の男が話をして居る。一人の男は尖顏にも連れの方を向いて太つた片足を投げ出して居る。連れの男はステッキに兩手を重ねてその上に顎をのつけて投げ出された足を看て居る。『私が子供の頃、矢張り網葢がこれをやつてましてれ、何んでも細い此許の胡瓜を竹の筒に入れましてれ、毎晩寢る頭の上の所へ水引で結へてあつた事を覺へて居ますが、そのお呪禮ですつかり治つた程ですからどうするのか故摩の方へ問ひ合せて居るのです』と云つて向脛をゲイ〳〵と擬いて居る。連れの男も同じ樣に、さも自分の足であるかの樣に無造作にゲイ〳〵と擬く。蟬が驟雨の如うに鳴き出した。(既)

新聞配達夫に手枷を掛く
又しても頑迷なる支那官憲の暴行

遼東新報長春支局の配達人虞廣惠は去る六日城内に赴きたる儘歸り來らず種々方を搜索せしに支那官憲は馬賊なりと稱して手枷足枷を入れたる儘投獄し遼東支局より引渡方を交渉するも左る事なしと言ひて引渡さゞる由(大連電話)

方魚津に疑似患者發生
釜山檢疫所にて檢鏡中＝大規模交通遮斷

二十二日午前七時慶尙北道蔚山方魚津に内地人漁民女一名疑似虎列拉に罹りたるを以て直ちに釜山檢疫所に報告し檢疫醫急行臨床檢診の上釜山に引返し目下檢鏡檢査中なり蔚山警察署は其筋の命令により大規模なる交通遮斷を施行して病毒の傳播に備へん筈なり(釜山特電)

連絡船内の警戒
檢疫官の乘組＝旅客の取締

長崎及び各地に於ては虎疫患者續發して甚だしく猖獗を極め關釜連絡船内にても檢疫を爲す事となり朝鮮總督府より檢疫官一名釜山警察署の衛生課巡査一名を乘船せしめ旅客に對して嚴重取締をなす(門司特電)

▼最初の抑留者　目下長崎を中心として各地に蔓延しつゝある虎疫に對し朝鮮内地入込を防止せんが爲め當釜山港にありても來鮮客に對し充分注意を拂ひ居れるが特に長崎方面よりの渡鮮上陸客に對しては先日信濃川丸の上陸客を三日間強制滯在せしめたるを始めとして連絡船客は二十一日午前着上陸客木浦商業會議所書記長中田孝之介草梁見晴亭藝妓みや乙事内野さよ(二〇)の二名第一回の停留者として釜山仙巖停留場に收容せり因に停留期間は長崎を出發の日時を起算して五日間とするものなり(釜山特電)

虎疫頻發
廣島熊本神奈川

二十一日午後總督府に達せる電報に依れば廣島縣下にては同日吉浦石炭船内に於て疑似虎列拉一名發生し熊本縣下には十四日以後天草郡手深町に十名、早浦村に七名、富岡町に四名其の他に五名、計二十六名の虎列拉患者を出せり、又た山口には十九日寄港の石炭船員二名疑似虎列拉に罹り、神奈川縣下には四名の患者を見其の内三名は既に死亡せりと

大月尾島檢疫所に停留を命ず
仁川に來航せる信濃川丸の乘客

二十二日午前零時四十分長崎より入港せる信濃川丸にて虎疫流行地長崎より乘船せし船客にして仁川港に上陸せし者八名ありしが仁川署にては此等船客に對し嚴重なる觸診を執行したる上檢疫規則に依り虎疫の隔離期間(航海日數も加算す)五日に滿る迄大月尾島檢疫所に停留を命じたり

機體完全
尾崎氏の自重

大阪城東練兵場に於けるク式軍用トラクター再度の試乘にて尾崎氏は大體の機翻調子を會得すると共に其操縱術に益々自信を加へ來り多少故障ありしもスロットレバー並にエヤーポンプは既に加工修理して完全無缺となりたるも飽迄自重せる氏は何事も注意を怠らず去る十八日處女飛行の際プロペラーの停止原因に就きエンジンを取外しの上一層精密に調査したるにフランクシャフト並に一部のホヒール等に僅に微細の缺點あるを發見したれば目下大阪力綱鑄工所にて加工中なるが該工事竣工の上決心の飛行を決行して種々新記錄を作るべき決心なりと因みにホールスカットエンジンは其構造の精緻なる點に於て殆ど完璧に近しと稱されをるも從つて發火作用も頗る銳敏にして米國に於て同發動機は火災保險最も高率との事にて本邦に於て彼の水上飛行家海野氏が西宮海上に初めて八十五馬力ホールスカット使用の際誤つて機體を燒きし例もあれば此點に關しても愼重なる尾崎氏は周到なる注意を拂ひ居れり(大阪支局)

松村權大教正は無罪

社會の注目を惹ける天理教權大教正松村吉太郎の文書僞造行使僞證事件は二十二日奈良地方裁判所にて無罪の判決ありたり(大阪特電)

巖窟内に潛む
附近を荒す内地人の賊

平南价川鐵山所在地軍隅里附近の内地人家屋にては近來毎夜盜賊に襲はれるので憲兵派遣所にても種々探査中の處去る十四五日頃石川旅館裏手山麓の巖窟内に晝間人の氣配がするとの事に十五日憲兵が該巖窟内に出張せしに若年の内地人男一名窟内約四疊半敷位の場所に横臥して新聞を讀みつゝあり傍には一升德利ビール瓶サイダー空瓶鍋醬油其他炊事用小道具類が散亂しあるより引捕へて見れば此者は原籍愛媛縣宇摩郡瀧村北條興一(二三)とて先頃迄同地小林雜貨店員たりし者にて解雇されて後村上菓子店の菓子賣子となり賣掛代金五六圓を盜みて新安州に走り同地料理店にて全部遣ひ果し又候軍隅里に引返したるものゝ宿惡ある身の寄る邊なきまゝ巖窟内を住家とせしものにて店員時代に各家の勝手を知れるを幸ひ米と言はず酒と言はず茶碗皿鍋大工道具や魚釣道具或は古新聞や印絆天の類迄手當り次第に竊取して居た事が判明したので取敢ず拘束して取調中

疾走中の汽車の窓より飛ぶ
無賃にて乘り込み逃走を企つ

二十日午後八時五十分頃鷺梁津を發したる列車が漢江鐵橋上を疾走中突然汽車の窓より飛び降りたるものあり橋脚の附近に打倒れて人事不省に陷り居るを鐵橋番人崔漢奎が發見し永登浦署より係官出張應急手當を加へし爲め蘇生せり同人は黃海道瑞山郡邑内居住の李弘烈(三〇)と判明せしも言語通ぜず多分無賃乘車をなしたることと龍山驛に著車すれば發覺すべきを豫想して逃走を企てたるものならんと

二日間の絕食
家出した可憐の嫁

仁川大月尾島内を年齡十四五歲位の鮮女が京城に行くとて徘徊い居る由を仁川水上派出所に於て聞知し本人を本署に同行取調よるに京城府生れの方泰玉(一七)と云ひ昨年夏頃仁川府居住の李在根なるものに嫁したるも餘り年少なる爲め役に立たぬとて姑と夫が隙がな折檻し出て行けがしの虐待に堪へ兼ね去る十八日家出し京城に歸る積りで方角を間違へ通船で大月尾島に渡り二日も絕食でうろつきゐたる旨申立てたれば身柄を本署に保護し事實取調中

發狂して投身

京畿道始興郡秀岩面章下里沈宜善妻金奉順(三)は生活難なる上に近來夫が他に情婦を拵へたることを探知し假に發狂して十五日午後十時頃同里の小川深水に投身して自殺を遂げたり

房内にて縊死

京畿道安城郡大德面乾芝里方德心(四)は竊盜及び家宅侵入罪にて安城警察署に留置取調べ中附近の婦女を辱めたる餘罪發覺したるより十八日午後四時半頃看視員の隙を窺ひ上衣を裂き長さ五尺位の細紐を拵へたるものを以て房内にて縊死を遂げたり

家庭不和から自殺

京畿道水原郡東灘面梧山里張光文妻金利用(二七)は十八日午後十時頃自宅炊事場の入口に白木綿を掛けて縊死せり夫婦の間には二人の子女あるも常に風波絕えず同夜も喧嘩の末此仕末に及びたるものなりと屍體は水原署員檢視の上夫へ引渡せり

煙突から出火

京城鳳翼洞藥種商劉居植方温突の煙突より二十二日午前十一時頃發火して屋根に延燒し大事に及ばんとせるを附近の者多數集まり消防に盡力したるため屋根四坪を燒失したるのみにて同二十分頃鎭火せり

仁川淸潔法日割

仁川署に於ては虎疫豫防の目的を以て來る二十五日より一般に臨時淸潔法を執行する事に決定したる事は既報の通りなるが其執行日割左の如し
▲二十五日萬石町、松坂町、花房町、支那町、濱町、新花水里▲二十六日本町、仲町、海岸町、山手町、山根町▲二十七日宮町、濱町、新町、寺町▲二十八日花町、敷島町、桃山町、柳町▲二十九日外里、内里、龍里、栗木里、龍岡町▲三十日牛角里、金谷里、松林里、松峴里、花平里(而天印近)

讀者文藝(一等には五十錢の相當額を呈す)

△飯めね

○をもちや(一等)　釜山本町　小野靜枝
▲佳作　京城呑天、密陽長野生、京城西川生、本町辻生、龍山西野生、元山高山生、京城波多野生、山口縣田村生、釜山佐伯生
▲次回題　上圖の通り

◎課題及び募集規定は欄外にあり

牛泥棒捕はる

仁川署管内富川郡永宗面渡所里農李守鉉(二〇)は去る十七日同里金近山所有の牝牛一頭が同里の山の手に繫留しありたるを竊取し牝川場の市場に牽行き知らぬ顏して放賣せんとする處を引致さる

救助網で負傷

京城電氣株式會社の五十九號電車が二十日午前十時五十分頃南大門通一丁目基督敎中央靑年會前を進行中附近の徐萬億(三二)が線路を横斷せんとして救助網に觸れ顏面頭部等に輕微の擦過傷を負へり

錢箱を覗ふ賊

京城笠井町金聖天(三二)は前科三犯の曲者なるが八月九日午前三時頃樂園洞申明重が店頭を開放したる儘臥寢中を見て侵入し錢箱を搜し居れる所を申明重に取押へられ鍾路署に突き出さる

溺死

平南寧邊郡德川面新興里三統七戶李龍月(二九)は八月八日午後五時頃同面大同江龍劍津渡船場より對岸なる面上里に渡船中過つて水中に落ち込み溺死を遂ぐ

◆笞刑　平南大同郡大寶面六兒里十[illegible]宛又平南孟山郡智德面考里洞四統七[illegible]同郡東面背田洞九統五[illegible]捕され取調べの上同所に於て八月十九日笞二十宛に處せらる

で、大倉俊一、同部順助、末廣久邦、廣川太郎、同伊一、同みち、西村いさ、中村三……　同松堆……

◎文藝課題及募集規程
◎懸賞募集規程　▲用紙は端書又は同型の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名

天氣　情後曇り　八月廿三日

商業登記公告
株式會社漢湖農工銀行鐵原支店ヲ設置シタリ
右大正五年八月拾日左記ノ所ニ支店ヲ設ク
忠淸南道燕岐郡北面鳥致院里貳百拾參番地
右大正五年八月拾九日登記
京城地方法院鐵原支廳

大同生命保險株式會社
第拾四期決算報告(自大正四年七月一日　至大正五年六月卅日)
一保險契約高　五千七百參拾貳萬五千百五拾圓
一諸積立金　九百貳拾貳萬八千參百七拾六圓

◎貸借對照表

資產部	
未拂込株金	[illegible]
現金	[illegible]
郵便振替貯金	[illegible]
銀行預金	[illegible]
貸付金	[illegible]
有價證券	[illegible]
不動產	[illegible]
什器	[illegible]
未收利息	[illegible]
未經過保險料	[illegible]
代理店勘定	[illegible]
假拂勘定	[illegible]
支店建築假勘定	[illegible]
合計	[illegible]

負債部	
株金	[illegible]
法定準備金	[illegible]
責任準備金	[illegible]
支拂備金	[illegible]
別段積立金	[illegible]
使用人養老積立金	[illegible]
社員身元保證金	[illegible]
一時預金	[illegible]
利益金	[illegible]
合計	[illegible]

◎利益金處分
當期利益金四拾壹萬參百四拾四圓六拾壹錢七厘之ヲ處分スル事左ノ如シ
法定準備金　金貳萬五千圓
別段積立金　金參拾六萬圓
役員賞與金　金壹萬圓
株主配當金(年八朱)　金壹萬八百圓
使用人養老積立金　金壹萬圓
次年度繰越金　金壹萬四千五百四拾四圓六拾壹錢七厘

◎我社ノ利益配當
我社ノ保險契約ニ對スル利益配當ハ別段積立金ノ漸增ト共ニ毎期其率ヲ增加シ今期ハ現ニ保險金額ニ對シ最高一割三歩ノ配當ヲ爲シツヽアリ

大阪市西區江戶堀上通壹丁目九番地
大同生命保險株式會社
取締役社長　廣岡惠三
常務取締役　祇園清次郎
取締役　廣田千秋
同　西田由
監查役　岩田幸七
同　星野行則

電話增設百〇五番
大暑の砌益々御隆盛奉賀候陳者小店儀御蔭を以て日に月に隆盛に趣き候事偏に御各位樣の御愛顧の賜ものと深謝候尚今後は一層勉勵の上御厚意に酬ひ度就ては從來の店舖にては狹隘にて兎ても御注文に應じ切れず候故今回岡崎町練兵場前に廣大なる敷地を買求め目下工場新築中に付落成の上は完全なる工場の設備と老練なる職工を以て鑛山用諸機械及工具排水灌溉用唧筒の專門製作可仕候間不相變御引立の程奉希上候
鑛山用諸機械工具
排水灌溉各唧筒
直輸入製作販賣
京城南大門通五丁目
中根商會
電話長百〇〇五番　四百五番

寫眞出張撮影　寫眞銅版亞鉛版
京城日報社寫眞製版部

夏物綿セル洋服
鐵道局拂下品
一等無キズ品壹組參圓五拾錢
二等品壹組貳圓五拾錢
三等品壹組壹圓五拾錢以下
其外雨覆　日覆用携帯天幕　雨合羽　冬絨洋服　外套類
和服洋服商
金子與市商店
龍山元町二丁目
電話一〇五番　振替京城三八一三番

正氣堂名刺舖
期日正確送料無料　京城本町二
電話二一九五番　振替京城一二八三番

母勢以子豫て病氣中の處藥石効無く廿日午前三時廿五分死去致候此段謹告候也
追て葬儀は廿三日午後五時自宅出棺永樂町西本願寺に於て相營み可申候
[illegible]
井上虎太郎
井上藤三郎
井上茂
尾西要太郎
親戚總代　藤村忠助
牧山耕藏
橋本節藏
秋山忠三郎
友人總代

株式會社京城葬儀社
旭町一丁目(京城府廳前)
二川屋事　中河原重吉　井上芳太郎
馬車設備あり
電話一五六七番

神佛葬儀請負
供花御寄贈品一切
京城大和町壹丁目五一
大和葬儀社
電話二四三八番
電話九五七番

葬儀請負
供花御寄贈品一式
京城本町二丁目(壽館横)
朝鮮葬儀社
電話五六二番

葬具一式
造花、生花、花環、寄贈品、裝飾品、其他供物一切
親切丁寧は本社の主旨に候間御用命奉希上候
京城永樂町二丁目
大葬社
電話一〇五六番

◎金剛山の『はなぶさ草』

△世界中曾て何處にも發見されぬ草花▽

△朝鮮では金剛山中にあるばかり▽

◇這回金剛山の探勝中にはいろいろ珍らしい植物を採集して來ましたが殊に中井博士の發見された(まつばゆり)や(うばゆり)などは金剛山土産としては頗る面白いものでしたがまた目下登山中の中井博士から示された(雲間りんだう)といふのも可愛らしい高山植物の一つでありました

◇其の他(にほひねずこ)や(はるまつ)なども面白い植物ですが就中(はなふさ草)といふのは

金剛山特有の草花で世界に珍らしい植物です

◇此の(はなふさ草)は主として金剛山中の内金剛に多く見ますが外金剛中でも三井タングステン鑛附近の千佛洞で發見しました、此の花の珍らしい點は先花の内部の構造と葉の輪生なるとによつて珍重されて居ますが兎に角世界中で金剛山以外に曾て發見されざる朝鮮獨特の植物です

◇初め此の草を發見したのは東京理科大學の内山富次郎氏でありますが其の後朝鮮植物の泰斗中井猛之進博士が羅甸文の大學紀要によつて世界に發表されてから全く世界に於ける新種新屬であるといふことが承認されました

◇元來依慶新らしい種類の植物は世界の其處此處に種々類似のものがあつて仲々容易なことでは世界の學界承認され難いものだ相ですが(はなふさ草)ばかりは全く朝鮮以外には無いといふことが認められました

◇此の花は(ほたるぶくろ)や(つりがね草)などとも類似して居ますが色は紫の藤色でなかなか美しく先づ朝鮮に於ては百合科のテラウチヤ屬アノマリフオンと蒋麻科のプレオブツセス屬と共に朝鮮に於ける三つの新種として世界に知られて居ります

◇花の名を(はなふさ草)と呼ぶのは曾て朝鮮駐剳の花房公使が植物に趣味のある人で在任中各種の朝鮮植物を研究されましたからその學界に盡された名譽を保存する爲めに斯く名付けたのであります、花は桔梗科に屬し學名は羅甸語でハナブサヤ・アヂアチカと呼びます(上林山林課長談)

金剛山の『はなぶさ草』 上林山林課長寫生

◎東京に移された資善堂

元景福宮内にあつたもの 瓦から敷石まで寶物其儘

東京赤坂靈南坂舊瑞西公使館跡(東伏見宮御邸前大倉男邸内一部)に巍然たる朝鮮風の宮殿が建てられた此

◆建築 に關する由來について大倉美術館の田邊浩氏は曰く「此宮殿は京城の慶福宮の一部なる資善堂と言つた御殿であるが今より百年位前の建物で朝鮮の

◆王樣 の御褒所なぞにも充られた事があるらしく勤政殿の後にあつたものである、どうして其御殿をそつくり東京へ持て來たかと云ふに今や朝鮮に於て舊政殿と慶會樓の二つの外悉く取り毀され歴史ある同國の宮殿が未來永久に世界の中から消滅し去らんとして居るのを遺憾とし寺内總督なども相當に

◆盡力 の結果昨年中瓦一枚敷石一つと雖も原形の儘船に積み本年二月から建築を起し來月一杯で完成の豫定なのである扨本御殿竣工の上はどうするかと云ふに豫て男爵授爵の際に發明された大倉美術館を國家に

◆獻納 云々は手續き六つかしき爲中止の止むなきに至り、尚今回大倉家より切り放し、別に獨立せる財團法人大倉美術館となし、澁澤男等朝野の

◆名士 を評議員となして維持して行く事になり本御殿も一緒に美術館に寄附するのださうである

婦人界消息

◎教員講習會終了 過般來京城中學校内に於て開催中なりし同校附屬小學校教員養成所第一第二學年の講習會は愈々二十三日を以て終了せり

◎京城中學職員旅行 京城中學校長柴崎鐵吉氏外職員四名は金剛山探勝のため二十二日南大門出發元山に向ひたり

◎教員懇親會 教育講習會に出席中の各道小學校教員七十餘名は講習終了近きを以て二十一日夜靜養軒に於て懇親會を開催せり

△露庵氏未亡人 故南部露庵氏未亡人とう子刀自は廿一日入京四五日滯在の筈

△坂口やよ子夫人(濟州坂口判事夫人) 病氣中の處十六日死去されました

△和田しう子(和田ドクトル夫人) 去月來内地茅ヶ崎へ避暑中のところ廿日夜令息と共に歸京されました

△井上せい(井上大朔記者母堂) 豫て病氣中のところ二十一日午前三時三十五分京城吉野町一丁目五十七番地嗣子虎太郎氏宅に於て逝去せり甥三郎氏は今二十二日南大門驛着列車にて大阪より入京三男茂氏は今夜咸興より入京の筈にて葬儀は明二十三日午後五時永樂町本願寺に於て執行の筈

神社とお寺と教會

○開教院(本町三) 廿三日午後一時より新入の教會あり

○東本願寺(南山町) 廿三日午後八時より大幸座昔の因明學講話あり

○神理教會所(南山町) 二十二日午後八時より月次祭執行式後講演あり

◎根芋玉子とじ 根芋を一寸程に切りて大きな處は立てにいくつにも切り水につけてあくをぬきやわらかに茹で揚げ笊にだしとミりんを用意して火にかけ前の根芋を入れ二三囘煮立ちし處にて醤油をさしてあじみ試み鍋を火よりおろして玉子を割てよくかきまぜたるを根の上に廣くながしかけて落ちぶたとなし强火にかけて二囘程煮立て深皿に盛る(青木はつ子)

番茶のあとさき

日本山岳會員として曾ては北漢山に十數回も登山した遞信局の橋本事務官は追回金剛山の探勝中内、外、雁門嶺を兩三回も往復した△しかし名物の九龍淵見物に出かけると道案内の鮮人が瀧壺に墜落して死にかゝつたので一時は靑く成つたといふ△又上林山林課長は内金剛の明鏡臺附近で黃泉の淵に落ち込むだが生命には別條なかつた相な私も黃泉の客にはなりたくないと船中で大笑ひ

商況

東京株式特電

二十二日 前場寄付 [illegible] 大引 [illegible]

債券現物特電

(前日との比較) [illegible]

公債直取引特電

(前日との比較) 九八、〇〇 九七、九〇

深川在米特電

二十二日現在高 一〇二、四四四 四〇七、八一九 一、六〇〇、四七二

東京期米特電

二十二日 前場十月限 六、六〇〇 五、七〇〇 [illegible] 後場 [illegible]

大阪株式特電

二十二日 前場止値 後場 [illegible]

大阪三品特電

二十二日前場 [illegible]

大阪期米特電

二十二日前場 [illegible]

下關期米特電

二十二日前場 [illegible]

雜報

[illegible]

◎支那皮は三四圓方の低落を見し鮮皮は産地の出廻り稀薄に目下同市場の在荷極る拂底の模樣なれば假令今後出廻り激増するも相場の下落は無論なるべしと

◎綿糸更に奔騰 各期とも三品は更に五十圓の大關門を突破せし勢ひを示し今前場は九限五十二圓三十錢十限二圓九十錢其他は總て二圓十錢と寄付昨後場止めより十の限二圓三十錢を筆頭に何れも一圓六八十錢方の奔騰を示し[illegible]

◎清酒と値上げ [illegible] 五錢方の卸値上げ 乃至一圓の値上げは避け難かるべし [illegible]

◎石油は不活潑 [illegible] 市場に更に會社側の第三値下を豫想し[illegible]

◎綿布と眼先 [illegible] 喚起し例年の如き需要を [illegible]

◎軍靴契約と牛皮 永らく行惱みの姿なりし露國軍靴注文も二十一日到着の木村電報に依つて報ぜられし如く今回は愈々契約の成立を見るに至りしもの如く [illegible] 相當の高値を維持し [illegible] 不採算に陷り [illegible] 今回の注文行惱み [illegible] 此上價格の暴騰は望難きやに [illegible]

◎罐詰類は好勢 [illegible] 不可能の狀態 [illegible] 出でんか一段の高値を現出せん [illegible]

◎白胡麻暴騰 [illegible] 先行益々上進 [illegible] 一圓以上の暴騰 [illegible]

◎生果類人氣回復 [illegible] 漸次順に向 [illegible]

下關相場 [illegible]

◎硬貨 仁川海岸町 取引所仲買人 迅速 (定期米賣買案内 市報次第送呈) 電話一六五番 六二〇番 廣澤正次郎

南大門の廻穀

黃州裸麥	三〇叺	天安糯	二九叺
黃州裸麥	四五叺	金義白米	五五叺
平澤々米	二四叺	水原白米	二二叺
鳥致院麥	二二叺	元山胡麻	五四叺
南川小麥	二一叺	郭山粟	二七叺
東萊碾麥	二六叺	鳥致院粟	一一叺
沙里院麥	二五叺	天安小麥	一六叺
沙里院麥	三五叺	平澤白米	五四叺

仁川現物市場

△籾 入津なし △正米 入津なし氣配は依然保合たり △小麥 入津五六百叺氣配は保合の唱へ

釜山穀物市場 廿一日

[illegible]

生魚市場

[illegible]

仁川期米

▲二十二日前場 大阪天候晴 [illegible] 入電一節同事の移り [illegible] 十一錢と安移 [illegible]

仁川米豆取引所仲買人 ㊐ 仲買店 支配人 土居 電話二八二番 圓二八三番

二十二日の十月限 仁川米豆取引所

前場	平均値段
寄付	十一圓五十四錢
止め	十一圓五十六錢
高値	十一圓五十一錢
安値	十一圓五十三錢
出來高	一萬三千石
一節	十一圓五十三錢
二節	十一圓五十三錢
三節	十一圓五十五錢
四節	十一圓五十四錢
五節	十一圓五十三錢

賣買取組高

八月限	二萬二百石	
九月限	一萬六百石	
十月限	一萬九千八百石	
前日後場	五萬八千八百	前日と比較

小賣白米 [illegible]

▲能く買ふ [illegible] ▲展開未だし [illegible] ▲變動近からん [illegible] 大厄日を眼前 [illegible] 大變動を演出する目 驚天動地の [illegible] 捷の間に [illegible]

▲依然動かず [illegible] 存外下げ澁り底強く成行 [illegible] 態度不鮮明 賣方の警戒 ▲前場の手振 ▲持合底强し ▲硬派は時機の到來 [illegible] ▲㊃の賣 [illegible]

市場雜聞

[illegible]

演藝案内

大正館 櫻井町 電話八七三 [illegible]

御成座 電話一九一一 [illegible]

壽座 京城壽町 電話九七八番 [illegible]

黃金館 電話二八五二(階上) 二六三七(階下) [illegible]

期米 大阪堂島米穀取引所仲買人 曾我商店 [illegible]

農業家に告す 一、粉煙草 殺蟲用 一、米ぬか 肥料用 各壹千名に限り大安賣 京城鍾路四丁目七六番地 允共益商會 電話一六八五番

昨夜失火の際は多大の御同情を以て迅速御馳付被下御盡力により大事に立ち至らず眞の小火にて消し止め得候段千萬難有奉鳴謝候混雜の際尊名伺ひ洩れも可有之略儀ながら紙上を以て御禮申述候 敬白 八月廿二日 京城旭町二丁目 京城印刷所

日韓書房 新版報告 千葉龜雄著 子規句集 定價六十錢 種田山頭火著 投入花の栞 定價八十錢 下田次郎著 母と子 定價七十五錢 杉金山監修 體力衛生 無病生活法 定價一圓 高木兼寬著 心身修養 定價八十錢 京城南米町二丁目

移轉御披露 今般左記の處へ移轉仕り候に付從來同樣御引立奉願上候 京城太平通り二丁目 各種繪葉書、口繪記念寫眞帖發行 南川コロタイプ製版所

支店開設御披露 各位益々御清榮の段奉慶賀候扨て弊店儀今般左記へ支店開設仕候就ては確實を旨とし精々勉勵仕候間何卒御愛顧御引立の程偏に奉願上候 敬白 本店 愛媛縣宇摩郡川之江町 高橋直次

營業品目 和洋紙諸防水布防水紙袋合羽紙油紙傘 製造卸 本店 京城太平通二丁目三百五十八番地 京城支店 高橋豊太郎

移轉御披露 弊店儀今般業務擴張の爲左記の處へ移轉仕り候間此段謹告候也 大正五年八月 京城太平通二丁目五十八番地 伊藤商行 電話二八六九番 本店 上海黃浦路卅一號 伊藤商行

エナメル塗料 本塗料は朝鮮總督府中央試驗所の發明に係り耐水耐熱性を有し室內塗替には尤も優美にして耐久力强く且使用簡易にして經濟的理想の塗料なり

エーボイル油 ボイル油も亦同試驗所の發明品にして皮膜の强きと光澤の美麗なるは本品の特色なり

アルミナ金屬磨 金屬磨は液體にして腐性を有せず眞鍮銅ニッケル其他一般金屬を磨くことを得容易に美麗なる光澤を發す

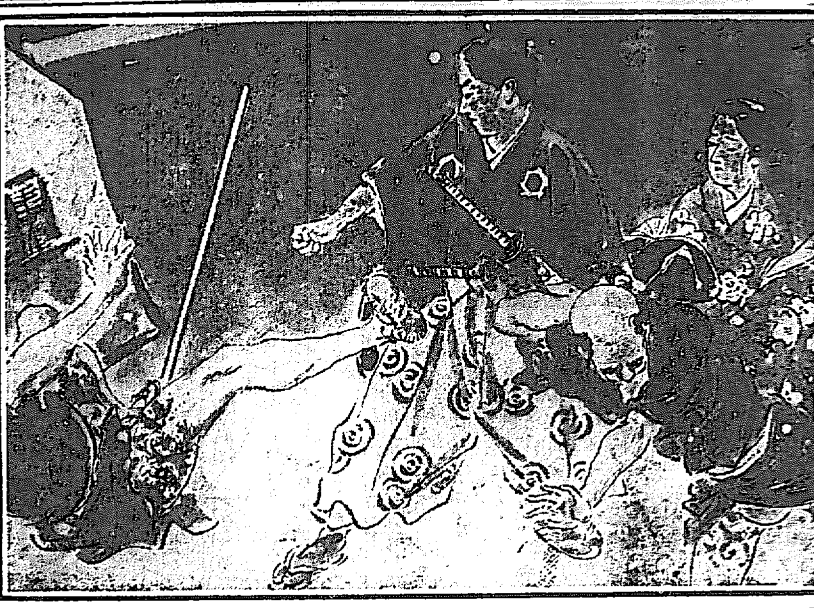
發賣元 京城南米倉町 京城製油所 電話一五八番

宮本武藏

第百三十七回

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

豊島新之助が 新「何にいたせ此の道場に居てはならん、早く逃げなさい」梅「ハイ」新「親御は何處に居なさる」梅「芝高輪に居ります」新「其れでは之れから直ぐに支度して庭口から出なさい、跡は拙者が引受けたから」梅「有難う存じますがモシ貴方の御迷惑になりましては」新「其麼事を心配しては不可ない、左右する中に目でも覺すと一大事、拙者もお前を救けたいと思つた事が水の泡になる、庭の切戸は開けてあるから一時も早く逃げなさい、夜更に女一人で心細からうが拙者が一緒に往つて上げる譯にも往かない、此先に三島屋といふ駕籠屋があるから、拙者が頼いつたといつて其所から駕籠に乘つて往くが宜い、三島なら大丈夫だから」梅「ハイ何から何まで御親切に」新「礼なぞは宜いから一時も早く」と新之助が急立てまして、お梅に支度させ、庭の切戸口から逃がして遣りましたのは新之助の親切お梅は虎の口を逃れました心持、教へられた通り鎌倉河岸の三島屋といふ駕籠屋へ往つて駕籠を一挺造らへて貰ひ、之れに乘つて芝高輪の家へ歸る積り、駕籠を急がして札の辻まで駆つて來た、札の辻といへば其時分の事で人通りもない所、駕籠を擔いで居た長助に權太といふ奴、長「兄弟少し止めて呉んな話しがあるんだ」權「宜し來たお孃さん少々お待なすつて下さい」と駕籠をポンと下して 權「何だ兄弟」長「何だつて間抜め、手前此女を高輪の家へ擔ぎ込む氣か」權「だつて其約束ぢやアねへか」長「馬鹿野郎、ダカラ手前なんぞは無學でいけねへといふんだ往古の人が窮鳥懷中に入る時は獵師が之れを取るといつた事がある、權「ヲイ兄貴、其奴は少し違ふぜ、獵師も之を取らずだらう」長「篦棒め獵師が取らねへ奴があるものか、手前なんぞは無學だから生涯駕籠舁をして居るんだ」權「ダツテお前も駕籠舁ぢやアねへか」長「篦棒め今は駕籠舁でも了ひにやア檜持にならア、」權「手前のいふ事は分らねへや」長「マア默つて聞け、此中の玉は上玉だ、這んな玉を馬鹿野郎ムザ／＼逃がして堪るもんか、夜更小更に女一人で聞歩いて居るんだ、どうせ碌な者ぢやアありやアしねへ、此方達が見逃したつて又先で旨い事をする奴があらア、ダカラ窮鳥だつてねんだ、解つたか」權「ぢやア什麼かするのか」長「當然よ之れから二人で自由にして品川の宿へ持つて往つて叩き賣つて了ふんだ」權「そいつは宜い事を考へたな」長「歸うと決つたら人の來ねエ内に往生させう」と駕籠舁二人が相談した、惡い奴があつたもので、駕籠の側へバタ／＼バタと近付いて 權「お孃さん一寸駕籠から出て下さい、少しお前さんに話がある」梅「何だか知らないが駕籠屋さん早く遣つて下さい、夜が更けると困りますから」長「ヤイ何を愚圖々々いつて居やアがる、ヲイ姐さん、お前さんに用はあるめへが此方に用があるんだ、出ねへといつても引摺出さずにやア置かねへ」と長助と權太が駕籠の中へ手を入れてお梅の帯を捉まへて引出さうとする、お梅は驚ろいて 梅「アレー」といふを振切つて駕籠から飛出した 長「此女め逃げやうたつて逃がすものか待て／＼」と追懸ける、お梅は夢中になつて 梅「アレー誰か來て下さい」と金切聲を揚げてバタ／＼バタ一生懸命に逃出したが女の足弱、飛んで來た權太長助 ○「待ちやアがれ此女ア」とただ右の腕を取つて後ろへ引倒し、落花狼藉と見ゐたる所へ忽然として躍り出たる一人の若者 ○「曲者」と一聲懸けるが否、長助といふ奴の襟髮摑んで圖攝倒と投出す 權「ヤア邪魔するな」と權太が組付いて來るのを組ませもせずして利腕を取り肩に懸けたる岩石落し二三間向ふへ叩き付けると、起上らうとして長助の野郎の頭へドシーリ叩き付けられた、アッといふと二人共に目を廻はして了つた樣子、カラ／＼と笑つた件の武士、お梅の傍に近付いて ○「お娘御、別段負傷もなされぬか」梅「危ない所をお庇樣で救かりました、有難う存じます」と一禮して月影に顔を見れば年頃は十八九の花も恥かしき美少年でありました



入院随時 旭町二丁目十三番地 若槻小兒科内科醫院 電話二四六二番 ドクトルメヂチーネ 若槻覺隆

南米倉町朝市場通仁濟病院跡 内科外科 花柳病 入院隨意 上野醫院 電話一九三四番

八月廿四日九星 舊七月廿六日癸己 本命一白北納友引

▲一白● 治りのつかぬ談判有日新事見合西方は吉婚姻北▲二黑● 劍のおろさぬ事有日新事手控舊事は吉買物に用心せらるべし▲三碧● 延遲の日轉居入學金談名弘求職林上出漁婚禮延期約定等皆吉▲四綠● 手順よき日轉居行商出漁名弘金談求職婚禮美術染色薬等萬吉▲五黃● 役にたゝぬ噺多き日新事手控舊事向を植ろは吉▲六白● 利潤の日轉居行商入學名弘家作求職金件婚禮水利應用業等萬吉▲七赤● 成効の日轉居旅行入門名弘金談求職皆開緣組遊洋出漁等皆吉▲八白● 腹のとゞかぬ事有日新事手控舊事は吉女難火物に用心せらるべし▲九紫● 殺風景の事有日新事手控舊事は吉女子は行儀を謹まるべし

●マラリアに一番 ヨクキククスリハ 龍山林薬房製劑の マラリア特効丸 藥價 金拾錢參拾錢五拾錢 ●郵税貳錢 ●ニセモノアリ御注意● 本舖 龍山 Ⓗ林薬房 京城本町一丁目 代理店 山岸天祐堂

十二指腸蟲病 說明書は往復葉書に申込次第進呈 大邱府東城町 電話四六三番 水田薬院

◎移轉 會務擴張の爲め左記へ移轉す 性相鑑定は從前の通り一般の依頼に應ず 永樂町二丁目 東京性相學會朝鮮支部主幹 隈本修平

仁川宮町一丁目 橋本製靴店 電話「貳貳貳番」へ御知せ被下度候

天性虛弱の男女試みよ 精力增し腦力成る 腦 神經衰弱 不眠症 腦に快し 腎 精液漏 陰萎 遺精 血 健忘 貧血 貧氣 腦の常に鬱ぐ人 飲め壯快となる 强壯劑 配合身心に共に英氣を增す 滋強丸 有効の證明狀 意病苦男女 に勸む直く試よ 定價一週八十五錢三週二圓廿錢七週五圓 全國到る處藥店に有り若し無ければ書金郵券無質料 ●東京築地二メイカー商會 振替東京八六六

●花柳病專門藥房 ●りん病藥壹週分普武圓特製參圓 ●ばい毒藥壹週分普壹圓廿錢特製貳圓 ●小包料拾貳錢引換廿壹錢 京城南大門外停車場通 ドラッグ商會 本部 振替京城四六七番 電話西二五六七番 ●近來東京其他各地に偽ドラッグあり藥品に有田製劑なき物は凡て偽物に付御買取の際御注意を乞ふ●詳細は本月一日の本紙を御覧

金露 攝津灘 大塚釀造所吟製 京城本町二丁目 發賣元 前田酒店 電話一三七番 振替口座四二一〇番

醫化學諸器械一式 Ⓚ 仁川本町 北島藥店 電話三三四・振替京城六七五 京城本町 永樂町角 北島藥店京城支店 電話七六一番

藥種賣藥卸商

診察時間 自午前九時至午後六時 初診の御方は可成午前中 京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行裏門前) シメノウチ齒科醫院 電話八二二番

御園白粉

おしろいは御園に限る。こと

御婦人方が申合はせた樣に有仰るのですが、數ある白粉の中御園白粉ばかりがなぜ斯樣に評判が良しいかと申しますと御園白粉は品質が非常に良いので誰方の皮膚にも濃くも薄くも思ふ存分綺麗にお化粧が出來附けた後で皮膚が爽かに氣持よく其化粧振は至つて高尙であるからです。

御料御園白粉本舖 伊東胡蝶園
御料御園白粉發賣元 丸見屋商店 (165)

お待兼の アイボリー石鹸
漸く着荷。不相變御愛用を願ひます。
エグゾン石鹸は
清冽なる芳香を以て有名。アイボリー石鹸には芳香なきも共に世界有數の純良石鹸です。
輸入及製造元 東京・丸の内 藤原商店 支店・京城黄金町二丁目

京城日報
第三版
廿三日朝刊 (夕刊と合せて八頁)
發行所 京城本町一丁目 合資會社 京城日報社
編輯兼發行人 小川三之介
印刷人 奧田直毅

日支交渉 京城日報

去十二日鄭家屯に支那兵暴行を擅まにし、遂に我守備隊を襲撃し、[illegible]するといふ狂態を演じ、一時は我方面に於て、宛も戰爭を、開始したるの有様なりしが、數日にして、平靜に復し、目下日支兩國政府間に外交上の交渉中なりと云ふ。

此事件に就ては、其情况略ぼ判明し居り、此の如きことは是れまで數ば其事例を重ねたるところにして滿洲蒙古の如き特殊の地域に支那兵を駐屯せしむるときは、斯る行逆には有り勝ちの事なり、特に鄭家屯の支那兵は大部隊なり、我守備隊は極少數なり、規律節制なき支那兵が其衆を恃みて暴行を逞くするは彼にありては決して珍らしき事にあらずと雖も、之を數ばするといふことは、自ら國際關係を毀害するの虞あり特に支那自身に取りては危險測るべからざるものあり、是れ今日北京政府及び所在文武官憲深く此に恐懼する所ある所以なり。

今日滿洲及び蒙古は、我日本と露西亞との經濟範圍にして、鐵道鑛山其他の開發は專ら此二國の力に是れ由る、且大凡資本を投じ事業を營み及び其人民を移植するものは、其安全を保つに必要なる防備警察を具ふるは當然の事にして、日露兩國が滿洲蒙古に於て各々一定の警備權を行ひつゝあるは固より其處なり、而して既に日露兩國に一定の警備權を許す以上は、支那政府は自ら警しめてこれと相衝突することなきを期し、其軍隊のごときは我守備隊又は警察官の居るところに近づけざることを務めざるべからず、之を歐羅巴諸國の歷史に稽ふるも、各國其兵員を邊境に出して互に相接せしむる爲めに無益の衝突を引起し兵士の衝突より延いて國際上の紛問題を引起したる實例枚擧に遑あらず、則ち一定の警備權を有するものある地域には他の軍隊を入れざるのみならず、相互の衝突を防ぐ爲めに、隙地、中立地帶、緩衝地帶を設定して一定の間隔を有たしむるを常とす、支那政府にして若し與全の計を求むるとならば、先づ其兵士の日本又は露西亞の經營範圍に入るを禁ずるのみならず、隙地若くは緩衝地の如きものを設定して其衝突の機會なからしむるを要す。

尤も此度の事は支那兵の無智と一部支那人の誤解とに起因し、北京政府は勿論地方文武官憲皆其過誤を認め、深く恐縮し居ると云へば此處置を[illegible]ことは甚だ容易なるべく、其初めの衆を恃みて暴行を逞くしたる鄭家屯の支那兵は、我守備隊の意氣甚だ盛なるを知りて狐疑[illegible]出動するものなく、大風一過全く平靜に復したりと傳ふるより推すときは全く是れ一時の出來事にして何等の根蒂なきものに似たりと雖も今度の事件を機會として邊境兵士衝突の禍因を除くことは今日の急務たり。

北滿の新鐵道(下)

▽移民政策 移民の最も發達せしは一九〇〇年北清團匪事件の勃發より支那老帝國の國歩漸く多難ならんとする以降六七年の間にして、清朝の晩年に於て甞て内蒙古、山東、直隸、河南の窮民を移せしと同一の方法を以て北京政府は可なり合理的なる植民の政策を立て、齊々哈爾政廳亦其の旨を受けて經營甚だ力むる處ありたり。而して黒龍府に至るまでの移民は最も容易に之を爲すを得たり。齊々哈爾地方(黒龍江省)は黒龍江、スイファ府、瑷琿根、ヘイヘイ府及び愛琿の六地方に細分せられ地方村邑間には完全なる道路を通じ主要なる地域には電信線を架設したり、然るに一九〇九年經綸將軍統治の舊組織は廢止せられ民國共和政府北政策を踏襲するに至れり。

▽移民と産業 移民の最も蝟集せるは瑷琿根附近、東清鐵道沿線の地にして農事に從事するもの其十中八九を占む。此の地域にて最も豐饒なりと稱せらるゝは松花江及び其支流フラン河、ツンカン河流域にして瑷琿根以北は少しく劣れりとなすも、概括的には何處も肥沃なりと稱すべく、小麥、大麥、粟麥、大豆、高粱、玉蜀黍等到る處に繁茂し、穀物平均收穫は一エーカー千四百四十斤度なりとす。然れども更に北進して黒龍江畔に至れば土地磽确にして耕耘に適せず、冬は酷寒凛烈なるも夏は短く且つ雨量極めて大なり。尤も或る施設をなすに於ては農業未だ必ずしも不可能と云ひ能はざるも能く南部地域の手收を得べし。農産物以外には綏化附近に石炭を産し瑷琿根に近きフンパイ河畔の石炭亦有望なりと傳へらる。今日の實線路の地域は未だ確定を見ざるも、哈爾賓、ヘイヘイ府間は七百二十五基米突、呼蘭府、綏化府、黒龍府、エーケンヤン、ダーラン、瑷琿根、愛琿、ヘイヘイ府の諸邑を連結す。又哈爾賓、ヘイルン府間の沿線には二百基米突の間隔を置き約七十五の村邑若くは植民部落を設くる計畫也。從て該地方は漸次人口の密度を加ふる事となるべし。瑷琿根以北に進めば現今人口甚だ稀薄なるが一昨年の推算に依れば鐵道豫定沿線の住民は其數二百餘萬を超へ三百萬エーカーの耕地を有す、而して東清鐵道當時の經驗に依れば新線竣成後は更に多數の植民を見るべし。

▽鐵道の經濟的價値 此地方在來の輸出品運搬法は戎克又は二艘船を用ゐてフラン河、タンカン河を下りて松花江に出で、東滿鐵道に達するものは同じくノニ河を下りて市場に運び、齊々哈爾より市場に送るものは東滿鐵道に連絡を取るを常とせり。今や齊々哈爾、瑷琿根間の物産はノニ河流の鐵道を利用し得べく更に呼蘭、瑷琿根の計畫線は極めて運輸上便利にして、此地方の開發と共に[illegible]設さるゝこととならん。たゞ瑷琿根以北黒龍江畔までの計畫線は移住民增加し土地耕耘せらるゝまで敷設の運びに至らざるべし、然れども此等の線路を敷設せし後三四年にして其の經費を償ふに足る充分の收入を得らるべしと信せらる。單り輸出品に止まらず、南部の地方より此附近の植民部落に輸入する器械、綿布、食糧、紙其他の日用品も亦此鐵道を利用するを得べし、要之、當地方の交通狀况猶未だ幼稚なる今日、本鐵道の敷設を見んとするは同地方開發の爲め頗る重要なる要素を加ふるものと謂ふべきなり。

經濟資料

朝鮮の棉花及麻類 (一)

其生産の現况及び將來 中村技師口演の一節

經濟調査會に於ける

以下掲載する記事は本年七月十一日總理大臣官邸に於て開かれたる經濟調査會席上總督府技師中村彥氏が口演せる所の一節也

一、棉花

□栽培の區域 棉は朝鮮の全土に能く適合して居るから咸鏡北道を除いた他の十二道には全部生産せられる。就中最も産額の多いのが全羅南道で、最も少ないのが咸鏡南道である。朝鮮人は白い木綿の織物を著るのであるから、其必要上棉作は從來相當に發達して來たのである。

□陸地棉作付增加 陸地棉は三十九年に統監府が事務を開始して以來、是迄朝鮮に出來て居た在來棉を陸地棉即ち亞米利加棉の『アップランド』に代へる方が農家經濟上得策であると確定され、爾來陸地棉の普及に努めて居るやうな次第である。陸地棉は三十九年に四十五町歩の作付をしたが、爾來年々增加して四十三年即ち併合の年には千町歩になり、昨年は既に三萬町歩を超過して居る。其の收穫した實棉は約三千萬斤に達して居る。本年は五萬町歩に擴張せられ、其收穫する實棉は約五千萬斤の見込である。是等の陸地棉は全道に獎勵して居るのではなく、忠清南北道邊りから南の方に獎勵して居るのである。北の方に作ることは、目下の所では氣候の關係上難かしい。目下栽培を獎勵して居る陸地棉は『アップランド』の品種は『キンズ、イムプルーブド』と稱するもので、若し其品種よりももつと早く收穫し得られるやうな品種が得られたならば北の方にも獎勵すべきであるが、目下のところでは今述べたやうに南の方に於て專ら普及を計つて居る。無論陸地棉の擴まるに從ふて、在來の棉の作付反別は漸次減少する。在來棉ばかりでなく大豆であるとか或は粟であるとか云ふやうな陸地棉と同じ季節に出來る夏作物も漸次減少して居るのである。在來棉は先程述べた如く北の方にも澤山作付を見て居るが、黄海道、平安南道、平安北道などが多いのである。昨年京城で開催された始政五年記念物産共進會に雖今述べた黄海道平安南道より出品された在來の棉花の中に優良なものがあることが判つたから、黄海道、平安南道及び平安北道にまでも段々と在來棉の品種の調査をして一將在來棉の改良と增殖に努めることになるかも知れぬ。

□農家經濟の利害 在來棉と陸地棉とを栽培するについて農家に取つての利害を見ると、陸地棉の方は反當りの收穫が實棉で約百斤である、在來棉は約五十斤である、[illegible]して陸地棉の方が[illegible]ある。[illegible]在來棉に[illegible]四十斤[illegible]の方が[illegible]、在來棉の[illegible]十四斤[illegible]二十四斤[illegible]種子が多い[illegible]の歩合は十[illegible]から、農家は陸地棉を作つた方[illegible]得であることは[illegible]實棉の代價を見ると陸地棉は實棉百斤十[illegible]圓の場合には在來棉は八圓であ[illegible]る。[illegible]反作つて[illegible]百斤、在來棉を一反歩作つて實棉[illegible]十斤出來た場合に、陸地棉の方は十[illegible]圓取れるのに在來棉の方は四圓し[illegible]か取れぬと云ふことになるのである。それであるから結局先に申した如[illegible]

郵便貯金雜話(四)

矢野通信課長談

(8)郵便貯金の最高制限額に達せし場合 郵便貯金をなすものにして其額千圓に達したる際は別に生産的の目的なくして徒々之れを引出すものあるを斯る際には公債證書勸業債券若くは確實なる市債等を購入するを得策とすべし其購入の媒介は郵便官署に於てこれをなすのみならず之れが保管の依托にも應ずるものとす郵便官署に國債其他の證券を依托せらるゝ時は利子の受領其他償還期限到來の債券又は當籤の勸業債券等に對し何れも郵便貯金局に於て相當の手續をなすを以て貯金者に於ては債券保管の手數なきのみならず償還期限又は當籤等に付き毫も懸念するの要なきものとす

(9)郵便貯金の運用 郵便貯金なるものは一般の公債と異なり政府に於て無用なる場合にも其金額多額に昇り政府に於て無用あるも却て貯金の減少することあるを以て之れが運用に就ては各國何れも慎重の注意を拂ひつゝあり英國の如きは其[illegible]コンソル公債に投資し佛國の如きは市債の應募をなし又白耳義の如きは建築會社に貸付をなせし其他の國に於ては[illegible]。[illegible]貯金の制度に就ても[illegible]以て[illegible]國際郵便貯金制度[illegible]一國或は數國間に於て所謂國際郵便貯金の制度を開始するの時機到來すべし、[illegible]國際郵便貯金制度たるや[illegible]なる研究を要し[illegible]關係國間の經濟關係の非常に密接なるを必要とすることは勿論にして其制度たるや郵便爲替の性質をも帶ぶるところとなるべし、國際郵便貯金制度に就ては未だ之れを述ぶるの要なきを以て之れを省略することとすべし(完)

日報俳壇

雄子郎選

夏 雜

樹蔭や官舍にパンの配達車　北星
瓜食ふて寢ては愚に育つ兒よ　同
瓜の味葬ふ音なる夜雨かな　同
妻が見て借りたる家や蟬の聲　同
蟬暑し假町なる亞鉛葺　同
簟居ると庭掃く妾は去にけり　同
逗留と極めて安き蚊帳の月　同
涼しさや待客けざる夜學人　同
芥子咲くや出水跡なき池の家　容堂
墓山を負ふ沼淋し夏の蝶　同
夜切や長雨晴れし湖の虹　雄子郎
籠狭き鶏積まれ行くや夏柳　虚中子

弟の病床にて
若葉見る緑や重湯の沸る音　同

危篤状態に陥る
足腫れて死期近き知る花菖蒲　同
臨終の脈斷續す花あやめ　同
葬の後の佛間淋しく飛ぶ蚊哉　同
常は閉る病院の裏や桐の花　同

大阪期米

後場高限寄付十四圓六十四錢止め出來不申A中限寄付十七圓十錢止め十八錢A先限寄付十五圓

大阪三品

仁川米豆取引所

[illegible]

▲俄然沸騰す 前場の形勢何となく活氣立ちたるも[illegible]大阪の前止安[illegible]高に[illegible]先以後場[illegible]

▲果然大激戰 市場何となく活氣を呈し居りたるが[illegible]

▲現物界 [illegible]

公告

京城地方法院

[illegible]

日本少年 九月號
科學的 大懸賞 ▲旅順港外の決戰…吉松中將 ▲強い人になれよ…大迫大將 ▲怪しい岩窟 入道雲探檢 ▲小説 斧の音 ▲小説 片腕
主筆有本芳水本月八日逸早く遭難山中奥深く分入り現場を實見す
△ 大附錄 (十六頁) 登山學生遭難實見記
少年落語會 ▲星月夜社頭の嵐…瀬川博士 ▲花の色彩が變る…草野博士 ▲留守居番 長詩信濃路 ▲小説 親子命 ▲小説 密書
定價一冊 拾貳錢 郵稅一錢五厘
東京京橋實業之日本社

品質の優秀は
醇酒 定勇
絶對の信用を博し
最後の勝利を獲得す
宮内省御用達 醸造元 灘 若林合名會社
特約店 京城本町三丁目 山本富之助商店 電話五七五番

◎眼鏡新荷著廣告
米國製 正金張 三種 甲 三圓五十錢 乙 三圓 丙 二圓五十錢
純ニッケル 一種 獨逸製 四玉サック付 一圓二十錢
地方より御註文の節は直ちに代金引替にて御送附申上候 但し前金に限り送費無料
京城本町一丁目(郵便局前) 中村時計店眼鏡部 電話一一七番 振替口座京城三四六番

家庭雜誌 九月號
生活を簡易にする工夫
(一)和洋生活の長所を採れ…阪岡寺新子 (二)實驗から來た簡易生活…安部早大教授 (三)和洋を折衷した暮し方…井岡光榮子 (四)囚襲的生活から脱れ出よ…桂木文學博士
▲簡易生活の基礎…嘉悦孝子 本誌記者
▲井上博士の勝手口から見た生活…藤井利益
▲小學生への注文 ▲實行子供の躾方…中野武營
▲衛生小説 花嫁時代…高橋醫學士
▲長篇小説 黄菊白菊…後藤宙外
▲浮田騎動 お秋の方…平井晩村
▲三食を二食に改めよ…山田安太郎 ▲家庭で改めたい事…井村博士夫人
▲社會百生活…(各階級の家政研究) 諸專門家
▲婚姻の條件に趣味を加へよ ▲殘暑と子供の衛生…白川醫學士
▲秋の化粧法…北原美容院長 ▲家庭に必要な園藝趣味…有田高師教授 ▲初秋に行すべき家事…婦人記者 ▲家庭と(童話)…高木文學士
生活難の救濟法…柳澤博士
定價一冊金二十錢 郵稅(共)一圓一金 前金八冊(半年)
東京本町 博文館

京城專修學校教官 安達大壽計著
朝鮮行政法規大意 定價四十錢 送料四錢
本書は專ら朝鮮に於ける諸官廳の試驗問題に適切にして極めて穩當なる解答を[illegible]し其の受驗用として當に必攜の書たり
發行元 京城本町一丁目 大阪屋號書店 振替京城三二五七

直輸入 土木建築 金物諸 諸官衙御用達
千代田生命保險合資會社代理店 名古屋鴨商株式會社代理店 日本石油特約販賣店
京城本町一丁目 佐野彦商店 電話一六三番 振替京城一二〇番

○鄭家屯支兵退却

鄭家屯に於ける支那軍隊は我軍隊の要求を容れ二十二日午前十時より午後一時迄に全部同地より卅支里外に退き我避難民も全部歸來せり(奉天電報)

○奉天在留邦人決議

鄭家屯事件に就き二十一日奉天在留邦人有志より對支聯合會及び國民外交同盟會に宛て左の電報を寄せ來れり(東京特電)

(前略)此の際政府は絶對強固なる態度を持し責任者の上長を免黜し同時に支那軍勢を輕減し尚我が軍警權を擴張すべく極力盡力を切望す

○衆議院附議事項

衆議院は二十一日段總理信認案を通過せる外、交通中國兩銀行整理案を審議に附したるが其の結果交通銀行の營業を停止し中國銀行を國庫に移す案は否決されたり尚軍人の議會干涉禁止案は附議せられざりし(北京特電)

○借款契約と露の抗議

支那政府と米國インターナショナルコーオペレーションとの間に歸化城熱河間鐵道敷設借款契約成立し假調印を終了せり金額は千六百萬元と稱せられ居るが露國は之に抗議せり(東京特電)

○露軍善戰高地奪取

高加索戰線の戰闘は今やヂアベキル方面の嶮險なる山嶽方面に於て行はれつゝあり此の方面の露軍は首尾よく諸高地を奪取し更らにムッシュ、ビトリスセンの先頭に守備しつゝある土耳其軍を包圍せんが爲めエルジンガン、ムッシュ間の西部斜傾面を前進中なり(倫敦電報)

○救濟會へ下賜

畏き邊りに於かせられては帝國水難救濟會が夙に帝國沿岸に救難所を設け創立以來多數の人命財産を救助し成績顯著なるを嘉し召され二十二日特別の御思召を以て御內帑金二萬五千圓下賜の御沙汰ありたり(東京特電)

○特使一行準備

御答禮使として露國へ御差遣の御沙汰ありたる閑院宮載仁親王殿下御一行の御旅程並に諸般の準備に就ては夙に決定し目下露國に對して照會中なるを以て本月下旬頃までは決定の上詳細發表の筈なりと(東京特電)

○山縣元帥歸庵

山縣公は二十二日小田原古稀庵に歸臥せり(東京電報)

○林公使挨拶

林公使は二十日段國務卿を訪ひ新任の挨拶を爲したるが段氏は二十一日林公使館を訪ひ答禮せり(北京電報)

○兩艦無事歸航

帝國練習艦隊磐手、吾妻の兩艦は今春四月橫須賀を拔錨遠洋航海の途に就き海路一萬五千五百浬を突破し豫定の航海を終り二十二日午前九時橫須賀に歸著せり(東京特電)

●警務部長行賞

大正三四年役に關し功勞ありたる朝鮮總督府警務部長警視に對し追回左の如く行賞の御沙汰ありたり(東京特電)

●賜金千圓 總督府警視 憲兵大佐 山形閑
●賜金千圓 慶尙南道警務部長 憲兵大佐 前田昇
●賜金三百圓 慶尙北道警務部長 憲兵大佐 服部米次郎
黃海道警務部長 憲兵大佐 鹽澤義夫
京畿道警務部長 憲兵大佐 隈部信親
●賜金二百圓(各通) 忠淸北道警務部長 憲兵中佐 櫻井茂三郎
咸鏡北道警務部長 憲兵中佐 水間春明
憲兵中佐 大橋又三
平安南道警務部長 憲兵中佐 瀧元次郎
憲兵中佐 那須太三郎
賜金一百五十圓(各通) 憲兵少佐 鈴木武臣
忠淸南道警務部長 憲兵中佐 齋藤七郎
平安北道警務部長 憲兵少佐 小澤寧
全羅北道警務部長 憲兵少佐 伊藤西郎
憲兵大尉警視 大田清松
●賜金百二十圓(各通) 警視憲兵中尉 ●豐原俊雄
●賜金七十圓(各通) ●同 ●大井傳重

大阪より

……の叙勳を悅ろ手して受く、味噌も糞も戰員となりたがる所以か。

○虎疫大阪に入つて經濟界を荒す、氷水の嚴禁と共に祭禮の[illegible]

下系の會社として當然の運命なるをなせる岐阜工業を併合せるは當然[illegible]業界の人物なり容易く流行に罹らる[illegible]

る內は抗一本打され頑張られたる[illegible]商倉側は辯護士を表から[illegible]

[illegible]旣報の如く其後十七日迄判明せし[illegible]

正五年度に於ける京畿道內二府二十郡の畓代神扱狀況を聞くに實行[illegible]

●水害と應策

六月中に於ける南鮮七道の水害に就きては昨紙詳述の通りなるが之れに對して講せられたる善後策左の如し

▲田畓の善後策 流失又は埋沒せる田畓に在りては之れが復舊には勞費を要すること多きのみならず其の恢復極めて困難なりと雖も單に浸水を被りたる田畓に在りては退水を待ちて能ふ限り水稻其の他の作物を再植再播又は代作を爲すの必要あるを以て各道溝退水前に於て其の善後措置に付き豫め研究を遂げ訓令又は通牒を發して管內一般に方法を示し之れが爲め必要なる一切の手配を怠らざりしより畓の被害は著しく輕減せられ畑作の被害に因る高地方民の困厄も亦幾分緩和せらるゝに至る可し

▲各道の救濟法 今各道に於て畓の被害に對し講せる救濟方法を見るに先づ畓に對しては

▲無被害地の苗代より餘苗の融通を爲す事
▲既植田より株分又は減株を爲して之を被害畓に移植する事
▲時期の關係上稻は見込ある地方に在りては苗代の再成を爲すこと
▲苗を得る能はざるものは(イ)直播を爲し(ロ)陸稻を蒔き取りて之れを畓に移植する事
▲(イ)稗(ロ)蕎麥を播種する事
▲大小豆の如き播き直しを爲し又は粟を播種する事
▲以上の方法にして既に耕行の時期を失ひたる部分には粟又は蕎麥を直播す

而して田に對しては

▲蔬菜、蕪菁、白菜等の蔬菜類を播種し殊に北部の補苗を行ふ事

とし極力收穫の途を講せしめ道郡職員、農事巡回教師及び面吏員等に於て警務官憲の助力を得直接其の督勵の任に當り敏速に右善後策の實行を期せり、而して

▲此施設を實行するに當りては各道共本人に於て種穀種苗を得る資力なく又は親戚地主若くは隣保の出給に據るの途なきか或は必ずしも其の途なきに非ざるも相互遠隔の地に在るが爲めに時期を失するの虞ある者に限り公費を以て下付すること〻し忠淸南道は臨時恩賜金凶歉救濟費中より二百十圓四十錢を支出し種苗三十石二斗八升を購入して之を配付し全羅北道に於ても同上中より四千八十二圓九十四錢を支出して

▲種籾約八百石 を購入配付し、慶尙南道に在りては臨時恩賜金凶歉救濟費中より八千七百八十五圓、恩賜罹災救助基金より六千二百十三圓、合計一萬四千九百九十八圓の支出を仰ぎ田に對しては種穀費七千六百六十三圓を給與し畓の爲めには七千二百四十五圓を支出して種籾を購入し且つ一面無被害地より稻苗を購入之を配付したり、其の他京畿、忠北、全南、慶北の諸道に在りては別に官より種穀又は稻苗費の配給を爲すの要なかりき

▲罹災民の救助 出水中は各地共官民協力最善を竭して避難民の救助に努め慶尙南道の如きは洛東江下流激流の爲め營業用發動機船の航行に堪へざるを見るや六月二十六日釜山より大型漁船二隻を臨時雇入れ汽車に搭載輸送し翌二十七日には發動機船一隻を回航せしめ以て金海邑及び柳斗島其の他洛東江中に於ける諸島內在住民の救助に努めたり又

▲一時炊爨の途を失ひたる者に對しては各道共或は隣保相扶け或は地主其の他篤志家に於て炊出しを爲さしむるもの尠からず而して道は其の及ばざる者に對し地方費を支出して炊出し救助に遺憾なからしめたり其の被救助人員及び之れに要せし金額を見るに京畿道に於ては二千五人に對して三日間の炊出しを爲し忠淸南道にては二百二十八人に對して六日間、全羅北道は一萬二千七百二十五名に對して二十日間、慶尙北道に在りては三千三百二十二人に對して十七日間の炊出しを爲し慶尙南道亦之れに對して六百七十餘圓を支出したり

◎日滿連絡成績

六月中に於ける滿洲發著貨物の輸送數量は三萬七千六百六十六噸(鐵道用石炭を除く)にして之を南北行に分ち前年同月に比較するときは日本側發七千九百二十三噸は五千五百二十九噸を、滿洲側發一萬九千七百四十三噸は六千三百七十四噸の增加を示せり今發著線別の輸送數量を示せば左の如し

	噸	前年同月に比し增高 噸
院線發南滿線著	一、二二九	四九九
院線發東淸線著	七九六	六三五
計	二、〇二五	一、一三四
局線發南滿線著	五、六三六	四、二一三
局線發東淸線著	二六二	一八二
計	五、八九八	四、三九五
北行合計	七、九二三	五、五二九
南滿線發院線著	六、四五九	六、一二八
東淸線發院線著		
計	六、四五九	六、一二八
南滿線發局線著	一三、二八四	二四六
東淸線發局線著		
計	一三、二八四	二四六
南行合計	一九、七四三	六、三七四
總計	二七、六六六	一一、九〇三

▲院線發南滿東淸線著貨物 を仔細に觀察するに南滿線著數量一千二百二十九屯、東淸線著七百九十六屯合計二千二十五屯にして前年同月に比較するときは南滿線著數量四百九十九屯、東淸線著數量六百卅五屯の增加を示せり南滿線著貨物の增加は前年排貨の甚だしかりし月と比較せるが故なるべし單に其輸送數量に就て見るときは夏季閑散期に入りたる月としては比較的好成績なり其は(一)前月來中國、交通兩銀行の兌換停止は著しく市場の恐慌を來し尠からず前途の商況を憂へしめたるが此後邦人に對する發揚制度の協定に依りて幾分市場の恢復を見るに至りたると(二)支那貨の如き激甚なる暴落を見ず相當の相場を維持せること(三)夏物仕入期たること等に依る次に東淸線著貨物は沈滯したる結果其の影響を受け取引も亦前年同月排貨の影響を受け本月の增加は當然なるも其增加は實に前年同月の約五倍に相當し前月より更に一段の活況を呈せり其輸送品種の主なるものを擧ぐれば綿絲布第一位にして兩線を通じて綿布八百五十六噸、綿絲二百八十二噸、計一千百三十八噸に上り一般輸送數量の五割六分を占め綿布類品種と共に前年同月に比較し何れも增加を示せるは前述の如く前年排貨の打擊甚だしく對滿貿易一般に不振なりしに依るものにして他に特記すべき荷動狀態を見ざるもたゞ四月以來不振なりし東淸線著綿布及び綿製品は夏季の小閑なる時期に入り反つて增加を呈するの變調を示せること之なり(續く)

◎鮮鐵荷動旬報

八月上旬(石炭、木材、雜穀盛況)

本旬の荷動狀態を見るに發送噸數四萬二千二百九十噸收入十萬八千七百八十六圓にして一日平均發送噸數四千二百二十九噸收入一萬八百七十九圓に當り之を前年同期に比較すれば一日平均噸數に於て千九十五噸(三割五分)收入に於て二千三百八十五圓(二割八分)の增加を示せり本旬中出荷の主なるものを揭ぐれば左の如し

順位	品目	噸數	順位	品目	噸數
一	石炭	[illegible]	八	肥料	[illegible]
二	米	[illegible]	九	大豆	[illegible]
三	木材	[illegible]	一〇	明太魚	[illegible]
四	雜穀	[illegible]	一一	鹽干魚	[illegible]
五	鐵石	[illegible]	一二	木炭	[illegible]
六	石材	[illegible]	一三	生果	[illegible]
七	黑鉛	[illegible]	一四		

次に前年同期に比し增減の著しきものを擧ぐれば次の如し

品目	增減噸數	品目	增減噸數
石炭	△一、五八九	雜穀	[illegible]
木材	一、二三三	黑鉛	[illegible]
鐵石	一、二四四	肥料	[illegible]
石材	[illegible]		

(△印減)

即ち本旬の荷動は前年同期に比し頗る好況を呈し石炭を除き他は概ね增加を示せり然れども前旬に於て荷動頗る旺盛なりし米大豆及び雜穀は本旬に入り著しく減少せしを以て前旬に比しては稍不況なり主要貨物の出荷狀況次の如し

▲石炭 頃日來平壤鑛業所炭(美林、寺洞發)の出荷增加せしを以て前旬に比し千十六噸の增加を示せるも前年同期に比し千五百八十九噸の減少を示せり此は前年同期は水害の後に一時出炭せしため某數の出荷ありしに因るものなり

▲米 前旬に於ては仁川行定期受渡米の輸送旺盛なりしため本旬に入り千六百二十噸の減少を示せるも前年に比しては大差なく相場稍回復氣配にて一日平均四百七十五噸の出荷を見たり

▲木材 新義州營林所發依然盛況を呈し前旬に比し稍減少せるも前年同期に比し千二百三十三噸の激增を示し本旬增加貨物中の第一位にあり引續き相當出荷を見るべし

▲雜穀 前旬に比し五百十四噸の減少なれども前年同期に比すれば五百四十八噸の增加に當り沙里院、興水、黃州、馬洞、信川、殷栗、載寧發小麥の出荷旺盛なり內地移出は小麥二百九十九噸にて門司著百十二噸大阪著百五噸下關著八十二噸とす

▲鑛石 本品の出荷は前月來大差なく引續き荷動好況にして前年に比し著しき增加を示せり就中新安州發本系割石鐵鑛石の出荷最も多く總數千五百五十三噸中千百七噸(七割)を占め次は宣川、龍川、中和等發黑鉛鑛石にして四百四十六噸(二割九分)なり

▲黑鉛 六月中旬以來出荷閑散に傾きしが本旬に入り再び活況を呈し前旬に比し二百四十二噸前年同期に比し三百六十二噸の增加に當れり而して黃海發蓬行最も多く三百二十噸に達し新安州、五十川等發之に亞げり

▲大豆 荷動き頓に衰へ前年に比し大差なしと雖も前旬に比すれば七百六十二噸の激減を示せり

▲豆粕 季節の關係上需要殆んど無く前旬の七百四十四噸に比し僅かに五十噸の出荷ありたるに過ぎず今後當分は同樣なる見込みなるべし

▲生果 本旬に入り出荷益々好況にして總數二百二十六噸を算し三浪津、大邱、慶山、洛東江、平壤發南大門、釜山、元山著最も多く內地移出は五十六噸にして下關著十二噸門司著九噸大阪著五噸なり

▲生牛 前旬來荷動き活況にして發數百七十五頭を算し內西端を除き他は皆內地移出にして沙里院、鎮南浦發木浦經由百十五頭釜山經由五十六頭なり

▲皮革製品 永登浦皮革會社製革品にして元山經由船六十四噸革製品二十七噸を輸出せり

◎米作と厄災日

慶北は先づ百五十萬石 本年慶北道に於ける米作は近年稀有の現象にて百六十萬石以上の收穫あるは既報の如くなるも來る二百十日前後に於ける厄災の如何によりて多少の減收は免る可らざるに至る可きも今大邱測候所長に就き是が豫想を聞くに目下漸く颱風に近づきつゝありヒリッピン方面よりの低氣壓は臺灣地方に小彎曲をなし裏日本に沿うて通過しつゝあれど例年の如く九月初旬に至らば更に大彎曲をなし日本海及び朝鮮半島を襲ふ可く豫期せらるれど其大小厚薄は全く未知に屬す然れども是を累年の現象に徵すれば明治四十四年以來一箇年中最大低氣壓にて颱風の襲ひ來りしは四十四年九月六日大正元年九月九日同二年九月二十日同三年九月十二日同四年九月九日にして測候所開始以來厄災期最大低氣壓は昨年の七百卅二粍にて四十四年九月六日の如きは七百五十粍にて止みたりと此の如く例年颱風期には低氣壓に會せざるを得ざれば本年も是が爲め多少の損害を見積るとするも本道全體を通じて米收百五十萬石は下らざる可しと

◎製鋼主來鮮期

米國製鋼會社長キャリー氏外五名の一行は日本及び鮮滿視察の爲來る二十七日夜連絡船にて來鮮京城に赴き其他各地を視察すべしと

◎哈爾賓貨物停滯

哈爾賓電 長春貨物は過般來寬城子驛に停滯し其數量五百車以上と算せられたるが東淸鐵道は爾三日以前より日々十五輛乃至二十五輛貨車十輛位宛之が輸送に當て居るを以て一週間以內には全部の輸送を了るべしと右貨物の停滯には頗る當惑せしもの〻如く多くは無蓋車に積込み運搬する等大繁忙を極め居れり

◎課稅小荷物配達便法

配達扱課稅小荷物は從來稅金の納入を待つて驛より配達し來りたるが怨の如くんば荷主其都度驛へ出頭稅金納入の上現品を受領せざるべからざる不便ありたるが鐵道局にては今回此不便を除く爲めの便法として今回驛夫をして配達せしむると同時に稅金を自宅拂ひと爲し得る事となれり

◎新設燈臺の建設

遞信局にて本年各地に建設すべき燈臺に就ては既報せしが八月一日遞信局所屬船光濟號は諸材料を積載し仁川出航各建設地に輸送し來りしが既に各地に於て建設中なりと

■南言北語■

鄭家屯事件は貴公の部下がやつたのだから直接の責任者は貴公だ▲と張督軍が馮麟閣に詰め寄ると馮麟閣は其れやあ無理だよしんば吾輩の部下がやつたにした處が▲討伐軍に關しては吾輩に相談もせず貴公が勝手に派遣して置いて今更ら其の責任もあつたものぢやない▲其の樣な事があるかイヤ責任は貴公だと責任投げかけやいをやつて居る間に馮はサッサと奉天を去つた▲とは正面からの話で實は貴公が今居ては面白くないからね島渡はづして呉れぬかウ、諾なで馮の去つたのは十八番の八百長の奥の手だとも云はる〻▲幾等判らぬのが眞實の支那でも之は餘り判らな過ぎる▲責任は其う心配しなくても此方にはチャーンと判て居るから安心するが好い▲と安心して居ると又た鄭家屯では日章旗を狙擊した▲今度は張督軍の部下の兵らしいから何んな芝居をやるのか▲芝居も好いが鄭家屯と云ひ鄭家屯と云ひ一體此の醜樣はなんだ▲ツイ間違つて發つたなど誤魔化したつて駄目だ其れなら支那兵は皆盲目かね▲林公使と黎總統とが兩國は唇齒輔車の關係だ其處は端近先づ〳〵之れへナンテやつて居る間に滿洲ぢや大事件が續々飛び出す▲唇齒輔車處か齒を鑿で嚙み付くかと思ふと車の心棒で撲りかゝつて來る▲北京で林公使が車を引つくり轉されねばよいがと心配して居る人が多い▲撫でりや嚙み付きさすれば怒るホンに前は狂犬

購買入札
第一號 玄米二百石
第二號 白米三百石
右購買スル詳細ハ大正五年八月二十三日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
大正五年八月廿三日 朝鮮總督府

一、日出、櫻井、元町三公立小學校井戶新設工事
此入札保證金各自見積價格百分ノ十以上トス
入札者ハ滿二箇年以上從事シ現ニ京城學校組合區域內ニ於テ國稅、府稅又ハ學校組合費年額三拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル
請負希望ノ者ハ當學校組合ニ就キ入札心得書、契約書案、仕樣書及現場熟覽ノ上來ル二十五日午前十一時迄ニ入札スヘシ
右入札ニ付キ等
大正五年八月二十二日 京城府井金谷元之ヲ擔任ス
京城學校組合

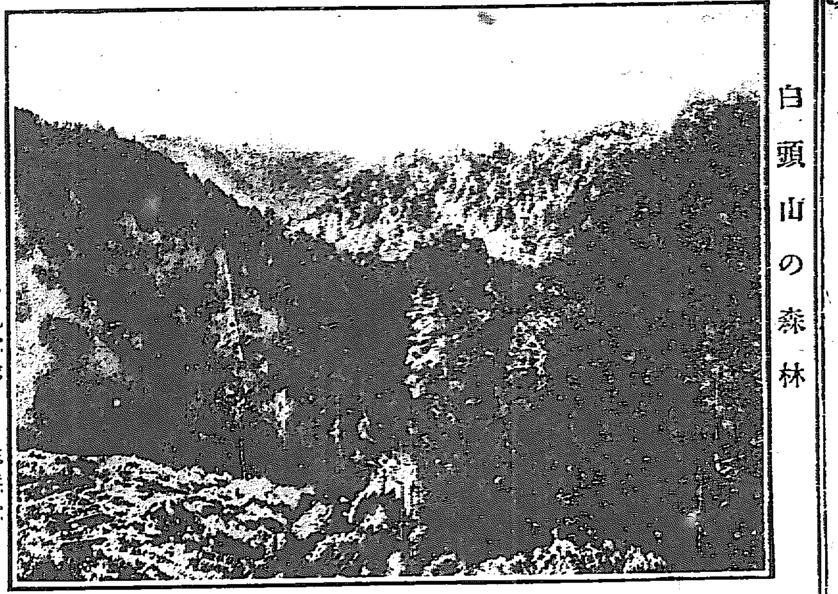
簿記生徒募集 短期卒業
卒業後は確實に銀行會社商店等へ就職紹介す規則書要二錢
京城明治町一丁目 京城簿記專修舘

京日案內
普通(一回前金三十錢…)
番外(…)
※申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

普通
老舗讓渡し度し 目貫の所營業珍物食料品十三年來の老舗(姓名在社) 93
●名灸 ●血の道 ●痲病 ●胃腸 根治 若草町若草湯前 建堂 堀內正文 94
藥劑師雇はれたし(姓名在社) 91
●英國ボーネヒル製有鷄頭三重迄二連獵銃附屬品共安價にて讓りたし(姓名在社) 90
●外務員採用 月給外有手當 身元確實なる者本人來談 京城本町五丁目郵便所北 忠愛義會 88
▼古本の買受は既に多年の信用と定評ある 電二五二七ウツボヤへ 75
●菓子商等職人一名及び十五六歲見習一名雇入たし至急申込あれ保證人を要す 淸州田中松月堂 電話三七 89
●二十歲以上三十歲以下普通教育ある者一名雇入たし但し朝鮮語の素養ある者履歷書を要す(姓名在社) 76
▼新羅史▲ 菊布金入四圓五十錢 特價一圓五十錢 代理店 京城本町 ウツボヤ書籍店 81
●貸金 御手形 月收の御方へ信用秘密融通 京城大和町三ノ二不老湯前橫丁 起木屋 78
●有給(男女)外交員招聘 永樂町二ノ七五 京城十友合資會社 80
●年齡十六七歲男菓子製造見習希望者雇入至急來談あれ 新龍山三角地前 陸軍御用菓子商 石見堂 電話三二一 79
●貸家 事務用煉瓦造二階家 低價にて貸す 京城長谷川町 五八番 60
●松汀里光州間自動車は太田木浦間の列車に聯絡す ▲光州加藤自働車運輸部
○古本圖高價買入 京城本町三丁目 東京堂書店 599
番外 礦物定量分析 京城府太平通(朝鮮公論社左小路) 坂元分析所 電話一三四四番 95
乳母入用 本年四月頃より七月頃迄に出產せし人至急雇入れたし 永樂町二丁目 吉田商店 電話一八七一番 92

圍碁初心者教授 ▲御希望に依り出教授の需に應ず 京城本町一丁目入口 益田碁席 57
恩給年金立替 即時取引迅速 利子年一割 手數料一圓 大正博井町向 元祖 博多屋本店 572
株 有利にして確實なる現株買物あらば ●公債株式 ●現物問屋 京城本町二丁目 三田中友吉商店 579
恩給 年金證書 日獨戰役恩賜公債 特別高價に買入す 京城南大門外 山口屋 586
電話口消毒器 傳染病豫防 ▲遞信省認可 ●油斷大敵 ▲專賣特許品 ●各地特約店募集す ▲京城黃金町三丁目巴商行電氣部 59
解雇廣告 主事補 木村楳次郎 右の者依都合今般解雇致候間爾今本社に何等關係無之候間此段廣告候也 明治公債株式會社朝鮮支部 70
▲下宿屋讓る 市內出入に至便にして有望なる場所 都合の爲め御希望の向は御來談を乞ふ(姓名在社) 66
京城春川間每日午前八時出發 四圓 京城南大門通一丁目 廣橋自働車 電話二一九番 主務 金正淵 592
恩給年金 即時立替 月利壹分 何年分でも特別御便利に御相談申上候 京城府若草町百六番地 西村商會 553
鑛山經營 重石買入 金石商會 京城鍾路二の九九 電話一八九九番 ▲鑛物分析並に鑛山調查製圖▼ 560
解職廣告 上田義祐 右の者今般都合に依り解職致候間自今當社と何等關係無之候間此段廣告候也 八月二十二日 朝鮮製綿株式會社

新刊書御案內
書名 著者 定價
最新法律大辭典 清水外二 特五、五〇
獨逸文法辭典 片山正雄 特二、五〇
刑事政策論綱 菊地駒平 二、〇〇
現代相似禪評論 一、五〇
立志奮鬪 森村男爵述 一、〇〇
現今名家碁戰全集 本因坊外三 一、〇〇
新撰圍碁全集 鈴木五段 上一、三〇
圍碁上手泣かせ 五段 六五
圍碁五先布石攻合法 中川七段 二、〇〇
新令工場法の運用 井關十二郎 一、七五
高等受驗提要 外二 一、八五
同 憲法解題 弘文堂 一、七五
日本民法第三編債權 石坂音四郎 二、〇〇
改訂新劇 想 三宅雪嶺 一、六〇
改版 南歐の日 主馬 一、三〇
新譯 紫式部和泉式部日記 與謝野晶子 一、三〇
新撰 子規句集 六〇
カイゼルの裏面 宮家新男譯 八〇
エーテンの青島を脱出て 同 七五
朝鮮礦業要覽 附鑛產地圖 朝鮮鑛業研究會 一、二〇
朝鮮の金鑛 町田長作 一、〇〇
タングステンとモリブデン 雲風 六〇
朝鮮官吏受驗必携法律講義 坂上綱吉 特七五
同 法律問答 附朝鮮行政法規要 同 四〇
同 會話譯文速成 安達大壽計 四〇
同 作文軌範 同 四〇
京城本町 電話二六〇八 振替京城一五三七 大阪屋號書店


白頭山の森林

●夏の白頭山

海拔七千尺定界碑　殘り雪もある
雨の夜風の夜熊狼の吼ゆる聲
熊と出會ひ頭に臀部をザクリ

＝松田學鷗氏一行大森林中の天幕生活＝(二)

京城詩壇の重鎭として知られた土地調査局地形第一班長學鷗松田甲氏はその班員二十四名と共に七月の始めから夏尚ほ寒き白頭山の大森林中に地形の測量に從事してゐる、人跡稀な深山に熊、狼などの

▽猛獸に睨まれ　ながらの天幕生活には都會に住む者の覗いて見る事も出來ない淒慘な又愉快な物語りがある左に掲ぐるは松田氏が實地に見聞した事實譚である△一行は白頭山、農事洞、南は寶泰洞、崔哥嶺邊二百方里計の間に廿箇所許に散在して天幕生活をなしつゝ地形測量の業務に從事して居る、もとより天幕生活をする位だから無人の境である事は言ふまでもない、人家を距る近くて三里遠いのが二十三四里、いづれも千古斧斤を容れた事のない大森林のなか晝尚ほ暗くその所々に

▽熊や鹿や獐の　遊んでるのを見るの外人一人通らぬ處を一人の技手が一人二人の人夫をつれて仕事をして居る、既に七月の初めから九月十月まで人影もない物凄い森林の中に百日も天幕生活をするのには普通の人の想像も及ばぬ面白い物語がある殊に此の地方は年々馬賊猖獗の地で

▽旅行者の掠奪　に逢ふことは珍らしくないが幸に我等の事業の爲茂山と惠山鎭の兩憲兵分隊から護衛の憲兵や補助員が來て居てくれるため作業者は安心して仕事をして居る、然し一人の技手が六方里位の廣い區域内に二三の人夫と天幕の中に起臥し

▽風の夜雨の夜　または熊や狼が吼ゆる聲を聞きながら僅かな眠りを貪るのは如何に淒いことであらうか糧食も飢を凌ぐにとゞまりその糧食も茂山や惠山鎭から運搬したのであるから米一升が三十錢以上にもなつて居るまた何處を通つても道路が惡い事は驚くべきばかり某技手の如きは駄馬に公用物品を載せていつた

ところが枯木が行けども行けども

▽路上に倒れて　居るその内それを越して行く馬は疲れ果て、倒れた木の中に、はまつて仆れて死んでしまつた、前後どちらを見ても人家迄は三四里もある、馬夫はアイゴーと泣くばかり進退谷まりて一夜を山中に露臥した。又某技手は農事洞から白頭山に到る途上林間の水溜に糧食をのせた馬が脚を沒して仆れ

▽數十日分の米　か水浸となつて喰ふことが出來ないやうになつた、又森林中は殆んど熊や獐鹿や、獐が遊戲場のやうに徘徊して居る或る時某技手の使役して居る鮮人獵夫は三頭の大熊に出會ひ頭に臀部を嚙まれた事もある、然しまた壯快なこともある、ツイ此の間惠山鎭の守備隊や憲兵隊の將校一行五十餘名が白頭山に登つて來てお手のもの一齊射擊を始め

▽九頭の鹿を射　止めた時など我々も其御馳走にあづかつた事がある、余が白頭山に登つたのは七月十九日で恰度土用入前一日であつたが彼の有名な定界碑の在る處海拔約二千二百米突あたりの邊から雪があつた併し

▽日中は高山地　の常としてなかなか暑いが、夕方近くなると俄に寒くなる既に先月末から今月始めにかけて三度大霜が降つたと無頭峰(白頭山より約二里東南)に居る某技手から知らせて來た

●巴布札布と會見仕候

堂々たる大將振り流石と存ぜられ候
昨晩より蒙匪見物に罷り出で候

八月十九日　郭家店にて　―生

去る十四日夕頃蒙古軍三千軍馬六千を伸いて突如郭家店に來襲し支那巡警を逐ひ部落を占領致候――蒙古軍の南下して各所に

◎支那官兵と　戰ひ勢ひ頻りに獰猛なるの事實は既に新聞通信等に散見諒承致居候ひしも元來通信機關の不備不完全なる滿蒙の奧地殊に處險多き場所柄とて最初其れ程迄重大視せざりし處郭家店占領せらると聞き是は面白しと一昨晩より蒙匪見物に罷出で申候郭家店は長春の

◎南五十六哩　四平街と公主嶺の中間に介在する小驛に候。十八日朝九時予等郭家店に到著せしに蒙古軍は滿鐵附屬地を去る約七

◎町の支那市街を占據し大小の旆旗を胡砂吹く風に飜へし　正に堂々たる軍勢に有之候蒙古軍は七月一日蒙地を發して七百支那里にして興安嶺を越ね更に三百支那里にして洮南に出で此處に支那官兵と接戰大に之を破り

◎長驅突泉に　轉戰して到る處官兵を潰走せしめ十四日夕頃郭家店に到著せし由に候。兵三千軍馬

◎六千駱駝二十八頭は巴布札布に率ゐられ某外人若干名之を指導致居候支那官兵は六百之と對峙し數度衝突したれど未だ決戰的事鬪なく睨み合ひの體にて支那官兵は頻りに奉天吉林よりの援兵を待居候一夕蒙古軍の總大將巴布札布と面晤せしが一見

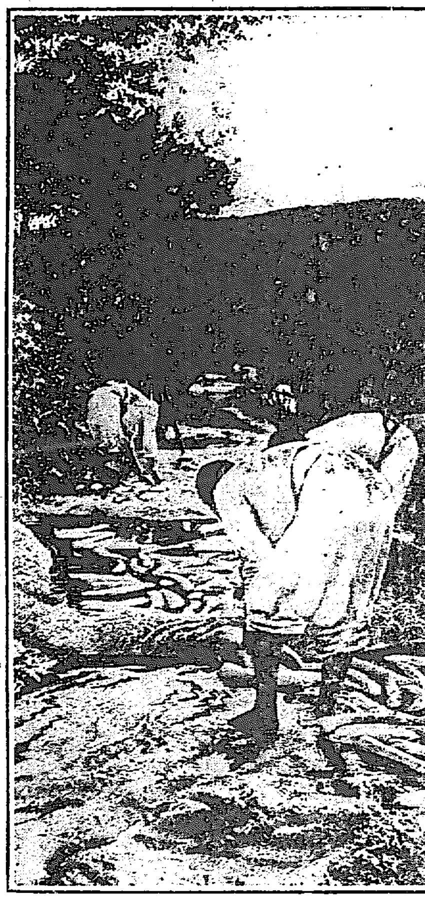
◎年齡五十餘　(實は四十三の由に候)溫顏なれど犯すべからざる威風あり實に堂々たるものにて流石三千の兵に帥たる御大將振に御座候左に兩軍對峙の略圖を附し御參考に供し申候。

(記者附記、郭家店に於ける蒙支兩軍は二十日午後一時接戰し支那官兵大敗し更に支那官兵は奉天より應援軍到るを俟ちて大戰鬪を爲さんとしつゝありとの情報は本紙前號奉天特電に詳し)

●落合海軍屬の捜索隊派遣

落合海軍屬の行衛は依然として不明なるに付き海軍省より百五十圓を捜索費として補助する事となりしかば靜岡縣警察部に於ては靜岡署に命じ捜索隊を派遣する事に決し廿一日午前五時半同部鐵道にて發程せり捜索隊は二隊に分ち警部補巡査部長等隊長となり一隊各十人とし長野縣より山梨縣に入り日程十日の豫定なり(東京特電)

野趣五題(五)


白瓜の白き地肌のしらくし新秋めける朝の小流れ

◆セルの袴　妙な失策

△少し昔かすみので紙上では申すことの出來ぬ話である。名前丈けは預る事とするが數日前某家で至る親密の間柄の小宴が開かれた。例に依つて左右に美姫あり卓上に美酒あり佳肴あり醉ひ發せざらんと欲するも能はざるものがあり、ゲーツプとか何とか此處は頗る非常な悦に入つてしまつた迄はよいが。居籠な話だが客の一人は頻りに催して來た

△人生は美にありて盡き、美はウ、、、と此世の享樂我身に極まれるを悦に入つてやつさ用を足し又二階の座敷に歸つて來た。其客が用を足しに部屋を出ると直ぐに是れ又同じ目的で出た主人の方も二階の便所で用を足して歸つて來た、「オイ、お隣に代へないか」とか何とか大に興に乘じて二人は又盛んに盃を擧げた

△正體もなく醉ひ潰れた客が送りの俥に乘せられたのは夜も更けた後であつたが、宅に歸ると狩褪や袴を脫ぎ捨て、敷いてあつた床にゴロ寢をやつてしまつた。奧さんは丁度内地に避暑旅行中なので要用女中が蚊帳の外に脫ぎ捨てゝあつた羽織を疊み次に袴に掛つた

△「奧さんがお居でになると、チーチャンお酒をお酌しになるとすぐ斑點が出來ますから氣をつけて下さいよ。」夫れに乱暴な事をなさると直ぐに皺くちやに成りますから。といつもお小言になる時には乾燥注意を受けてゐるつもりの羽織、今年初めて出來たセルの袴と女中は亂れた裾を直しにしてゐると妙な臭ひがするとは思つたがチットモそんな事とは氣が付かないでゐると手先に觸るもの、キャッと見ると濡の女中に素晴らしい現物、思はず女中はきまりがいやだ。

△「ウワーム、誰だ？ムツお前か。何と云ふ騷ぎをするのだ」と責びくく樣子を聞いて流石は醉客も驚いた。帰ッ辨つたとは言へ其處迄は解つてもゐなかつた。その行狀だと思つて、醫師にやつたのか、夫れでもいつものセルの話を纏つて客人の女中は例によつて部屋々々の掃除をして行くと二階に上り階下も申合せた樣に便所の中が散々な狀態であるのであるらしい、性質の惡いのもあるものだと愚痴を言ひつゝ掃除を濟ますには濟したが其日午後に成ると

△急遽して驅け込んで來たのは昨宵のお客、昨夜のは拙者の仕業である以て面目次第も無いと突然神妙に頭を下げて謝まられて見ると此方も角先づ一杯と云ふ事になつたのでお互ひに辨當にはお話にもならず現金で、女中へも一寸お辭儀をしての辨ひはしたが、年來の縮ひ殘りまで半分辨つた頭痛きりの話がつたと云ふ――しかしその人は誰々と言ふ事を書かれた人だけに悉ういましくも見えなかつた。

●鍬で毆り殺す

慶北尙州郡外南面索隱里農康時昌(二八)は實父康寉五(五〇)と常に衝突勝なるより寉五は里民に對し種々時昌の惡事を吹聽したるより時昌は大に憤り八月五日父寉五が庭先に蓆を敷き熟睡中を見澄し有合はせたる鍬を以て面部を毆打して即死せしめたる事發覺し時昌は即時尙州憲兵分隊に逮捕さる

●往來で毒を仰ぐ

仁川府龍里訴訟代理人李喜堂(三五)は常に發狂ひに變身を窶し居るより家内に風波の絕間なかりしが玆數日前より妾宅に入り浸り歸宅せざるより正妻李姓女が迎に行き連れ歸る途中嫉妬喧嘩の揚句李喜堂は女房への面當に懷中し居たる毒藥を仰ぎ苦悶

●仁川瓢舘出火

映寫中大混雜を極む

仁川活動寫眞常設館瓢舘は二十二日午後八時四十分頃映寫中機械室より火を失し機關室は全部火炎に包まれ觀客は大混雜を極めたりしが幸ひ同室が煉瓦造りなりし爲め他に延燒せざりき臨場の警官及び附近交番常備消防隊等の活動により觀客に一人の負傷者もなく九時頃全く鎭火せり(仁川電話)

●橋の下で負傷

京城義州通二丁目李恩昌(二七)は十七日午後五時半頃南大門通一丁目の道路改修工事に從業中金汝善なる者洋反物を滿載したる荷馬車を挽きて同所を通行の際暗渠の橋梁腐蝕しゐたりし爲め橋梁破壞し折柄下にて工事中の李恩昌は橫木に壓され右膝關節右手等に治療十日を要する打撲傷を負ひたり

し始めたる騷ぎに李姓女が驚き最寄交番所に屆け出で警官出張直ちに仁川病院に收容應急手當を加へたれば生命には別條なき由毒藥其他に就き疑はし點あれば目下取調中

●雨選手送別撞球會

本邦撞球界の名手にして目下滯京中なる山川藤田兩氏は近日中に退京すべきを以てその送別を兼ね二十三四の兩日黃金町日進軒に於て撞球競技會を開催し兩氏の審判を請ひ尙ほ競技會後兩氏の對戰撞球等あるべしと

●自動車不通

京春道路加平清平間の小川に架設せる橋梁は修築にて自動車不通の爲め目下當業者は人力車十臺を以て連絡をなし居れり

▲一昨年山東の昌黎で我步兵第十八聯隊の一部隊が支那兵と衝突した事が有つた丁度今度の鄭家屯問題と同じやうな問題であるが▲其際其の中隊長の佐藤大尉は實に痛快に機敏な處置に出でた、二三支那兵に死傷者が出た爲め支那側から抗議を申込んで來たが手嚴しく一言の下に彈ね付けて了つた▲其後また何んとか支那側から申込んで來るかと思つたが先方では其の儘泣き寢入りに成つて終つた▲當時井口新軍事參議官は十五師團長として豐橋に居られたが其の部隊が歸還した際將軍は事件の際に取つた臨機應變の處置を大變に賞稱し別に感狀を拵へて與へる譯には行かなかつたで口頭を以て大いに賞揚した▲また此の春鴨綠江上滿浦鎭へ馬賊が襲來した時に同地の守備隊の取つた處置は極めて機敏であつた憾處場合に軍隊としては別に褒賞する規定が無いから將軍個人の名義で褒狀を與へたそうである▲其の後同守備隊は馬賊襲來に當つて憲兵隊を援助したと云ふので憲兵隊司令官から感狀を出す事になつた此んな事件に當つては部隊長の機に應じ機敏の處置を取るといふ事は最も大切な事であると某將校は感慨に堪ねないといふ口調で語つた

●獐群の出沒

平南价川郡々内面雲谷里地方に於ては十二三頭の獐群をなして出沒し農作物を害する事甚だしきより里民は協力して之れが驅除に努めつゝあるも里民のみにては手不足なるより今回同里々長金製龍より价川憲兵分遣所へ之れが驅除方を出願したりと

●屍體漂著者

京畿道驪州郡康川面康川里の漢江右岸に年齡五十歲位の男鮮人男子の溺屍體漂著し居るを同地の憲兵出張所檢視せしが死後約十日を經過し居るものゝ如く全身腐爛し居れりと屍體は同里に假埋葬せり

●時計を喰ふ

京城殉雲洞時計修繕業池廣德(二七)は平洞金學振なる者より銀側懷中時計一個(十二圓)の修繕方を依賴され之れを西大門一丁目東定鎬に賣却したるを手初めに同樣手段にて外數名の懷中時計多數を橫領したる爲め鍾路署に檢擧さる

●隱袋から竊む

京城昌信洞居住電車運轉手見習金漢寘(二九)は中學洞金龍鉉方下宿中八月十一日夜中學洞金在俊方に遊びに行き同人が脫ぎ置きある上衣のポケットより銀側懷中時計一個(十三圓)を竊取して鍾路署に檢擧さる

●平昌郡出水被害

江原道平昌郡内に於ける夏來の出水被害

●京畿道苗代稗拔狀況

偷且つ汽車の只乘りをなし然かも死生の境に立ちて叱咤咆哮せし佐官殺せるは可なるも砂糖をも加へんとするは甚だ甘き策にしも然かも蛇足。

○盲腸に溜れる糞塊の如き會社日本興業會社遂に解散の決議となる岩

○日本毛系會社上毛モスリン工場を手に入る、トップの生產方を強大せしめんとする同社が毛絲紡績

主の山口玄洞氏を取込み會社に委任狀を突附けんとすと傳ふ、同氏も實

金にて契約期限内に土地返還をなさしめんとして怒りを買ひ借地撤の

朝鮮總督府許可

人參エキス
人參エキス　人參藥　朝鮮名產一切　藥舖製造發賣元
京城本町一丁目　津村兄弟商會　電話一四八〇番　振替京城三五二番
人參直引大販賣所
特約店　北島藥房　古城藥房　廣岡藥房　松屋阿部藥房
内用精能　神經衰弱、老衰、神經痛、胃腸病、子宮病、腎病、貧血、諸病後の滋養强壯劑なり
外用精能　神經痛、火傷、凍傷、切傷、打物、腫物、肩の凝り、時に蟲に螫れたる等によし
定價　六十錢　一圓二十五錢　二圓五十錢　三圓五十錢

責行盛に　倍々發展
Mゴム
三田土ゴム製造合名會社製造
發賣元　飯田商店
數ある中をM印は特に撰ばれて長き光榮を得たる最優良品と御記憶を願ます

醇良清酒
仁川本町四丁目　吉金酒店　電話七六四番

最新流行　メニスカス眼鏡レンズは眼球の回轉したる場合普通玉の如く物像に差違を生せざるが本レンズの特長なり
近眼　平眼　甲二圓五十錢　乙一圓五十錢
眼鏡專門卸小賣　京城黃金町二丁目　宮川大學堂　振替京城一二二九番

今般母元子逝去に付御弔意を辱し奉萬謝候去十九日葬儀爲相濟候間不取敢此段御挨拶申上候
於東京　松永武吉

製品は常に新しくて非常によい。保證の出來得る煉乳にはヒシの印の商標あり。我が政府の奬勵製品

大阪市　太郎

●松田式ポンプ
灌漑用　家庭用

朝鮮一手特約販賣
京城本町二丁目　釘本藤次郎商店
電話四五番　二七七四番　振替京城二五六番

女鳩

渡邊默禪

【八三】その正體

「誰だッ」。

勇は聲をかけながら伸上つて見たと、炎の沈みかゝつた焚火の手弱な光にぼんやりと映つたのが、微暗い戸口の蔭をかきのけ、その蔭からぬつと突出した人の首である。

「アハヽ、大野の旦那、私たよ」。

首は答へた。いかにも陰鬱な嗄れ聲で、冷たい笑を識した時に、眼も鼻も朧ろな鈍黑い顔から、髑髏のやうな反齒が食出して、それが火影に眞白く光つた。

勇は夢を見てゐるのではないかと自身を疑つた。併し夢にしては餘りに意識がはつきりしてゐる。心身の極度に疲れた時によく見ることのある幻視なぞでも無さゝうだ。

「爺か、爺ぢやないか」。

再び問返した。首は又笑つた。

「アハヽヽ、爾うだッてば」。

「…………」。

勇は最も口が所けなかつた。佛上つた儘全身が化石したやうになつて只戰々と粟立つた。肝然と瞬つた瞳さへ、その畏しの影に縫ひつけられたかの如く、ぱちりとさせることも能きなかつた。

途端に子傍の褥の方に寢てゐた猛大のルイスが、逸くもそれを認たと見ねて、勃然と飛出すが早いか猛然と吼ねた。と、小舍の外でもその聲に應じて吼ね立てた犬がある。さうやら太郎のやうだ。

勇は頓かに悟つた。さながら大斧で頭二つに打割られたやうに、からりと疑念が解けた。急いで飛起きて入口に行かうとすると、卯太郎はひつしと其の足に絡みついてゐたので三四尺ばかり曳摺られた。勇は慰つて突放した。放れる機會に手をついた卯太郎は、入口の方をひよいと見てきやッと叫んだ。そして毛布の中へいきなり頭だけを突込んでがた／＼と顫ひる。

この騷ぎに子傍は夢を破られた。先刻から目醒めてゐた鳩子も吃驚して起きた。ルイスは勇より早く入口へ驅出して行つて人の匂を嗅ぐと、急に聲を收めて尾を振り出した。

其處に立つてゐたのは幽靈でも何でもなかつた。正直正銘の巨きな體を無事に持つて遁つた源作だつた。その足下には彼と一緒に行方を失した飼犬の太郎が、嬉しさうにクンクンと鼻を鳴らしてゐた。

「一體、どうしたといふんだ！」勇は意外の歡びに、小兒らしく泣出したいやうな氣がした。「どうしたんだよッ、爺！」

「エヘヽヽ。いまいと(最つと)早く來たかつたけんど、ふき(吹雪)の止むのばかし待つてたんもんだから」。

源作は入口の所に腰を卸して、何やら背負つて來た大きな袋を卸した。

「いやア、ほんとに酷い目に遇つたす。いま(もう)ちいつと(些と)でハア、凍つと心中するとこだつたさ」。こんな事を言つて、それ／＼と足を擦つてゐる。

「大野君、源作の樣ぢやないか。」

「あら、爺だよツ」。

子傍父子は狂喜の聲を放つて一緒に勃然と跳起きた。

「はい、儞うです。儞うです。ふ無事に歸つて來ました。健全です。健全です。おいッ、爺、早く上らんか、さ、早く」と勇はそゞろ心になつて源作の手を引張つた。

「待つてけらつせ。まだ草鞋も脱がねのに上られつけ」。

「そんな物は脫がなくともよい。さ早く上れ、上れッ」。

「あれ、ひどいことを。衣裳が引つちやけるではねわか。待たつしやいてば」。

「待たれるかいッ、莫迦ッ」。

卯太郎は毛布の下から目ばかり出して不思議さうに眺めてゐた。

●俳諧散心(第六日)

萩

侘び住んで炭籠張るは萩時も　盧中子
寺門入れば墓右見ゆ萩も株殖ゑて　同
萩咲くや寡婦思はす女居る　たかし
堀拔井の水出す萩亂れ咲く　同
白萩や法の灯を踏む寺の椽　修果
萩咲くや買はそれと見ゆる白髮染　同
白萩やまた生き居る留の忽　同
眼を閉づる我瓣淋し萩の花　同
促されて又灯に織るゝ萩の窓　田打夫
萩咲くや此頃知れる馬の瘠　同
地圖に辿る明日路程や萩の雨　同

雜

砂で濾す鐵氣の水や寒餘子飯　盧中子
色鳥や壁土を練る千下り　同
花火舟水底に灯の園ありぬ　たかし
溫泉の窓に朝晴の山芭放る　同
笑ふ度に白き齒並や扇借く　田打夫
喚り流く女ありけり門芒　同

新刊紹介

▲東京藥種貿易商報(八月號) 五錢東京市日本橋區本石町四の一七共社
▲大日本新聞(三〇九) 五錢東京市麹町區有樂町一の四共社
▲嗜好(八月號) 十二錢東京市銀座二の六明治屋
▲フースヒー(二三) 五錢東京府下澁谷二二共社
▲市町村雜誌(八月號) 十錢東京市芝區田村町六共社
▲少女新聞(七) 一錢東京市京橋區疊町一東京社
▲幼年繪話八月讀本 夏の動物園、西班の失敗、蟲づくし、御魚づくし、飛行機世界の口繪を卷頭に日本の海軍、私の旅行、源の朝朝、一錢與貨物語、戰鬪魚、螢の光、僕の兄さん、蜷のいたづら等の色々小供の悦び相な話が澤山の挿繪と共に賑かに記載されてあります(二十五錢東京市日本橋區博文館)
▲娛樂世界(九月號) 長講には伯山の中山七、如燕の仁王太郎、雉山の賊退治、圓玉の天狗、小南朝太郎衆あり小說には吉井勇の[illegible]
▲魚貝類漁殖利用法(農業世界增刊) 大別して魚の養殖、貝蝦の飼養、魚介類利用法、食用品、工用品、肥料品七門とし各部門に於ては夫々特種の注意方法等を平易詳細に說明せり殊に有望將來に發多の期待を有する水産業に就て好箇の手引草たり參考書たるべし(二十二錢東京市日本橋區博文館)
▲講談雜誌(九月號) 猫遊軒伯知の「川治の殺行」桃道軒雲五の「金銀山の窟」各三十頁に上る大長講を初め一流講者の講談落語十餘篇を選載せり定價の手輕なるに拘はらず内容の充實せることは他に全く比類を見ず(十二錢東京市日本橋區博文館)
▲日本少年(九月號) 深山踏破の大冒險を企て不幸中途に斃れたる登山學生の悟死に就き親しく現場の實際を見聞して寫眞地圖入十六頁の附録を別冊とし猶ほ本誌には春ツチナー元帥の悲壯なる最後の光榮、有松、大道、淺田各將官の愉快なる武勇談、科學的大冒險、少年露語等あり(十二錢東京市日本橋區博文館)
▲婦人世界(九月號) 本號には村井弦齋氏が三十八日間の久しき斷食を實行して實驗した る効能を細述し實行の第一週より第四週目に至るまでの準備、方法、經過、肉體の變化、精神の狀態等を手に取る如くに說明せり古來斷食の効能を說くもの少なからざれども氏の如く自ら深く研究し之を新式に說明したるもの無し[illegible](十七錢東京京橋區實業之日本社)
▲商工上「日露新協約記念號」 日露新協約に關する諸家の外蒙論の摘す件發せぬ[illegible]各家の意見[illegible]日露協約と蒙[illegible]北満生等の外[illegible](廿五錢東京市京橋區新肴町一二 東京機械全物合資會社出版部)
▲朝鮮の商業(八月號) 製紙原料の好適業、朝鮮に於ける陶磁器の原料、簡易なる明太漁の改良製法、有利なる製鹽、[illegible](十五錢東京大和町一の四六共社)
▲水産界(八月號) 遠洋漁業奨勵主の[illegible]漁業權の將來小西和、[illegible]第三郎好魚類延長野三郎其他如備(二十五錢東京市赤阪區溜池町一大日本水產會)
▲英語の日本(九の一五) 語義研究、齋藤秀三郎、受驗英學新聞社、伊原從市、英語大家原動譯等(十二錢東京市神田區表神保町三建文館)
▲農業雜誌(八月號) 藥用としての桑草の研究、綠土法に就て、稻栽培法、夏季魚類漁獲別法、其他及び問答欄あり(六錢東京市麻布區本村町二二一番舍社)
▲實業之世界(八月號) 誌中の利用三宅博士株式の將來諸名士、胸[illegible]新發法規出伸、廣告に人の頸の使ひ方若山先生其他(十二錢東京市麹町區有樂町一ノ四 實業之世界社)

▲大和町二丁目に近く永樂町事件の樣な大騷動の起り相な家がある(寶見生)▲二十一日午前十一時頃南大門前巡查交番所の近所で牛の大喧嘩があつて通行人は驚いて逃げ大騷ぎをやつたが誰れも止めず見物して居た腰拔け計りぢや(共同婦人)▲龍山某病院では藥局と經理部の大衝突があるので患者は甚だ迷惑のみならず危險だ(注意生)▲葬式踊りの朝鮮人一團が午前二時頃酒に酔つ拂ひ大騷ぎをやつて歸つてゐたが何事が出來たかと出て見りや斯の通だつた(吉野町不眠坊)▲此の熱い日も外勤をやつて頂戴して來る亭主の給金を片端から湯水のやうに浪費する内縁の妻が京城には隨分多い綜合一本筋にしても官吏の面目を失すること夥しい(注文取)▲京城は内地の都會に比較して古本の値が二三割高い是は東京や大阪から移入して賣るものであるといふが商人は是等に事寄せて暴利を貪るものだ(苦學生)

商況

大阪株式府電

合同新株	八〇・二〇	二十二日後場	一五二・四〇
鐘淵紡績	一九七・五〇	八月限	一五二・九〇
同上新株	一六八・一〇	九月限	一五二・七〇
東洋汽船	一二九・七〇	十月限	

七十錢止め七十四錢

下關期米特電

▲二十二日(前場) 京城後場十五圓七十九錢大阪前止十五圓六十六錢後場七十錢止め

著しく胃を爽快にする強胃消化錠

世界登錄商標 アナタの胃病にはマーゲン

八木田醫學博士處方 島田藥學博士鑑査 マーゲン

【特色】マーゲンは從來の健胃劑と異り、其特色は著しく胃を爽快にし消化を佐くし胃弱を快治す

第二回懸賞

一等賞品 腕卷時計 二個
二等賞品 萬年筆 五本
三等賞品 革製弗入 十個
四等賞品 [illegible] 百個

【問題】(1)マーゲンが強胃消化新藥として發賣されたる理由は何か？(2)マーゲンの登錄商標は何か？(3)本廣告を見られたる新聞名

[illegible]ファーザーを御用ひあれ 價卅錢六十錢一圓 京城黄金町三 電話二九四九 山田文榮堂藥房

最上醤油

朝鮮仁川港 高杉醤油釀造場

泰醫學博士檢定

アルサミノール ARSAMINOL

大學教授鈴木博士指導の下に日本の[illegible]進歩に着手したるネオアルサミノールは鋭意工夫を重ね[illegible]漸く大方の需要を充たし得るに至れり。

曩年エーリツヒ博士が本品を發明さるゝに際し動物試驗を擔當し六〇六號共働發見者の榮譽を擔はれたる秦醫學博士は本劑に付ても亦動物試驗を擔當さる故に秦博士は各瓶の品質に對し絕對的保證の責任を負はるゝものなり。

アルサミノール ○・一瓦 ○・二瓦 ○・三瓦 ○・四瓦 ○・五瓦 ○・六瓦

ネオアルサミノール ○・一五瓦 ○・三瓦 ○・四五瓦 ○・六瓦 ○・七五瓦 ○・九瓦

東京室町 三共株式會社

開店御披露

天下一品 家庭用二寶 用無八ノ井

登錄商標

カタクテ ヨクオチ マス度御試 シテ御覽 ナサイ

二十一日より向ふ一週間開店御披露の爲め多少に不拘御買求めの御方へ粗品進呈可仕候間賑々敷御來店の程偏に奉希上候

京城本町二丁目(京城郵便局前) 奧野商店

日韓書房

新版報告

千葉鬼村著 新撰子規句集 定價八十錢 送料七錢
依田信太郎著 賣る法賣はせる術 定價七十錢 送料十錢
鈴木魁若著 官公吏必携 書翰と式辭 定價八十錢 送料十錢
池上文僊著 禪講奇談 一棒一喝 定價六十五錢 送料八錢
海賀變哲著 長唄集 定價五十五錢 送料十錢

京城本町二丁目 電話一四〇五番 振替口座一一五番

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

株式會社 百三十銀行 京城支店

京城本町壹丁目 電話長五八番 一九四番 振替貯金京城一三一番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候 爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

くすりは山岸

諸官衙御用達

洋藥 賣藥 卸問屋 醫療及試驗器械

懇切叮嚀迅速確實に市内配達及び地方通信販賣致居候

京城本町一丁目郵便局前 山岸天佑堂 藥品部 器械部 電話 一二〇 一一七 一六〇 振替貯金京城二三

イケダ小兒病内科醫院

池田季雄

京城三越呉服店前(入る旭町四丁目) 電話 醫院 一二三四番 自宅 八八〇番

贊化病院

京城本町二丁目 電話二四一番

内科 小兒科 入院隨意

無料施療す 毎日五名を限り

醫學博士 古城憲治
醫學士 上野亮藏

大邱浦項間自動車發時間

上り 浦項發 前六時 一番 二番
下り 大邱發 前六時 一番 二番

大塚農場自動車部 大邱出張所 電話一一七番

汽船釜山出帆廣告

門司、神戸、大阪行 ○立神丸 月 日後五時出帆
○元山丸 清津、浦潮行 月 日後十時出帆
○立神丸 城津、浦潮行 月 日後十時出帆
○元山丸 西湖、新浦、城津、清津行 月 日後六時出帆
○小倉丸 月 日後六時出帆
○第三琴平丸 門司、宇品、神戸、大阪行 月 日後六時出帆
○住須奈 嚴原、壹岐、博多行 毎月二日九日十六日 午後十時出帆
○天眞丸 釜山濟州立新町 本船 取扱店 大池回漕部

共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行 關東都督府命令船 第一共同丸 八月廿三日 後四時出帆
大連にては南滿鐵道會社の連絡輸送御取扱仕候
○城津、清津、浦潮行(元山出帆) 第三共同丸 八月廿五日 前九時出帆
○西湖津沿岸各港を經て雄基行 第一阪鶴丸 元山出帆 月 日 前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 本町一丁目 電話一〇八番 山下回漕部
元山代理店 (電話二四七番) 田口回漕部
京城取次店 南大門通 電話二六八・二〇一七 河村運送店

大阪商船仁川出帆

(外國航路、沿岸航路を除く) 開港時刻表は豫め出帆の時日を以て連絡切符發賣仕候

[illegible]須磨丸 群山、木浦、釜山、馬關、神戸、大阪行 八月廿七日 後五時出帆
○安東丸 八月廿九日
○天智丸 鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 八月廿六日
○漳州丸 八月廿七日 後二時出帆
○木浦丸 木浦、釜山、嚴原、郷の浦、長崎行 八月十四日 後二時出帆
○信濃川丸 八月廿七日
○安東丸 九月 日
○鎭南浦丸 鎭南浦、大連行 八月廿三日 後二時出帆
○信濃川丸 九月 日
○大連丸 大連直行 八月廿五日 正午出帆
○福州丸 九月 日
○群山丸 釜山、横濱行 九月四日 後二時出帆
○潮州丸 九月 日
○清津丸 浦潮行(元山出帆) 一八城津、西湖津、清津、浦潮不寄港
○安平丸 八月廿七日 後二時出帆
○宮島丸 九月二日
○城津丸 上海、基隆、打狗行(大連出帆) 八月廿四日 前四時出帆

御注意 ●印は南滿鐵道及び南浦鐵道各驛と連絡切符發賣仕候 ●印は客貨積卸の爲め仁川港に寄港 ×印は貨物のみ
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二番 五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 ●中國四國航路各港行船客に對し一割引を以て

朝鮮郵船出帆

本社 電話長一九五二番 京城南大門通 諸港連絡の切符發賣仕候
支店 [illegible]
京城取次店 松原運送店(電話一七〇七)

○全羅丸 八月三十日 釜山發
○京畿丸 九月九日 釜山發
○咸鏡丸 八月廿四日
○忠淸丸 九月三日 元山發
○平安丸 八月卄五日 元山發
○咸鏡丸 八月廿九日
○昌平丸 九月一日
○咸興丸 八月三十日 元山發
○西湖丸 八月 日 元山發
○永興丸 毎月廿八回 元山發
○京城丸 九月一日 釜山發
○江陵丸 毎月 日 釜山發
○三浦丸 八月廿九日 釜山發
○海州丸 八月二十一日 木浦發
○慶興丸 三日目毎ニ 木浦發
○天草丸 三日目毎ニ 木浦發
○慶興丸 八月廿五日 木浦發
○慶興丸 九月一日 木浦發
○公州丸 八月廿七日 木浦發
○宗信丸 八月廿九日 仁川發
○江原丸 八月廿六日 仁川發
○錦江丸 九月一日 仁川發
○南陽丸 毎日午前 仁川發

尼崎汽船仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
○君か代丸 八月廿四日 後四時出帆
○大有丸 八月廿九日 後五時出帆
○神代丸 八月廿七日 後四時出帆
○秀吉丸 [illegible]

仁川代理店 高杉回漕部

日本郵船仁川出帆

○大連、天津、牛莊行
相模丸 九月七日 後八時出帆
高砂丸 八月 日 正午出帆
三河丸 八月廿七日 正午出帆

仁川代理店 堀回漕部